

君津市高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画実態調査（アンケート）に係る 分析結果報告書

令和5年3月

君 津 市

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の表示方法	2
II	調査結果	3
1	介護予防・日常生活圏域二エズ調査	3
(1)	回答者属性	3
(2)	からだを動かすことについて	9
(3)	食えることについて	11
(4)	毎日の生活について	13
(5)	地域の活動について	16
(6)	たすけあいについて	17
(7)	健康について	20
(8)	認知症にかかる相談窓口の把握について	22
(9)	生活支援について	23
2	生活機能評価等に関する分析	24
(1)	機能別リスク該当者割合の分析	24
(2)	日常生活	38
(3)	社会参加	40
3	在宅介護実態調査	44
(1)	調査対象者様ご本人について	44
(2)	主な介護者の方について	54
4	在宅生活改善調査	59
(1)	自宅等から居所を変更した利用者の行先別の人数	59
(2)	自宅等から居所を変更した利用者の要介護度の内訳	60
5	居所変更実態調査	61
(1)	地域内の居所移動の実態	61
(2)	居所変更した理由	65
6	介護人材実態調査	66
(1)	過去1年間の介護職員の職場の変化	66
(2)	人材確保や職員定着のための取り組み	67

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、令和6年度から始まる新しい高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画の策定にあたり、65歳以上の市民やその家族等を対象に、日常生活や社会参加、介護予防の状況、支援のニーズ等を把握するほか、介護サービス事業者を対象に、施策・事業に対するご意見、今後の意向等を把握することを目的に実施しました。

2 調査対象

介護予防・日常生活

圏域ニーズ調査：65歳以上で、介護保険の要介護1～5の認定を受けていない方

在宅介護実態調査：在宅で生活をし、介護保険の要支援・要介護認定を受けている方のうち、認定の更新（区分変更）申請をした方

在宅生活改善調査：市内の居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護支援事業所及び看護小規模多機能型居宅介護支援事業所

居所変更実態調査：市内の介護施設及び居住系サービス事業所（サ高住・住宅型有料含む）

介護人材実態調査：市内の介護施設及び介護サービス事業所（サ高住・住宅型有料含む）

3 調査期間

令和5年2月～令和5年3月

4 調査方法

郵送配付・郵送回収方式

5 回収状況

	配付数	有効回答数	有効回答率
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	3,500 通	2,360 通	67.4%
在宅介護実態調査	800 通	419 通	52.3%
在宅生活改善調査	32 通	20 通	62.5%
居所変更実態調査	32 通	17 通	53.1%
介護人材実態調査	112 通	50 通	44.6%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを  で網かけをしています。（無回答を除く）
- ・回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。
- ・「一般高齢者」は65歳以上で、介護保険の認定を受けていない方
- ・「要支援認定者」は要支援1～2の認定を受けている方

Ⅱ 調査結果

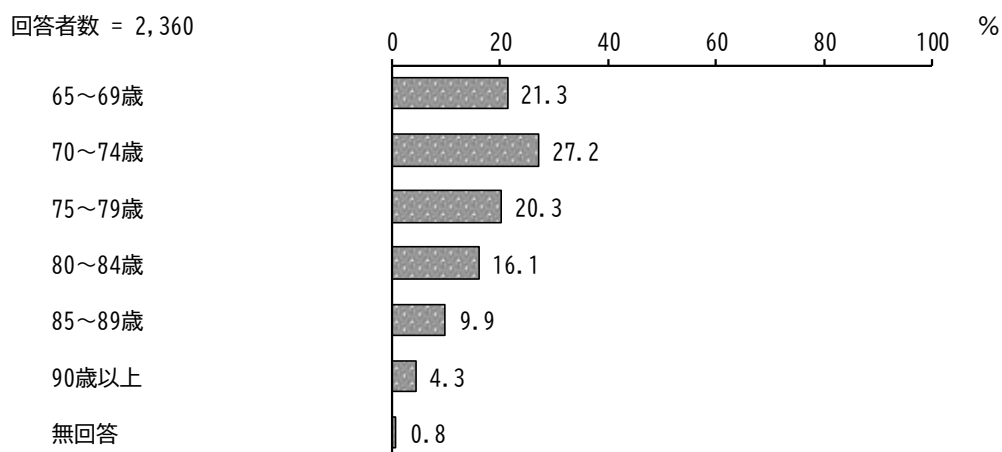
1 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

(1) 回答者属性

以下の問いにつきましては、あて名ご本人の情報をご記入ください。

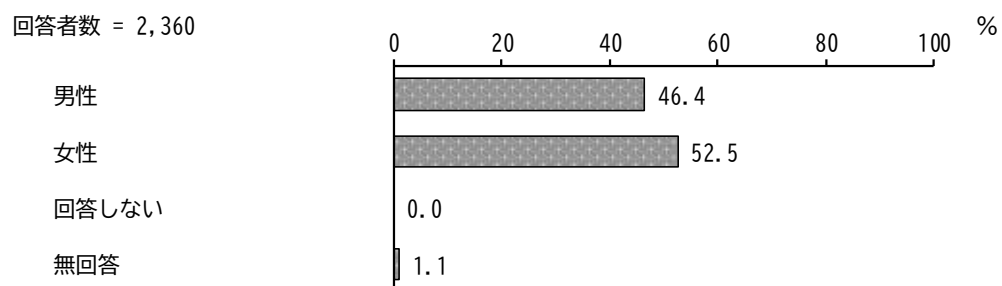
●年齢（回答は1つ）

「70～74歳」の割合が27.2%と最も高く、次いで「65～69歳」の割合が21.3%、「75～79歳」の割合が20.3%となっています。



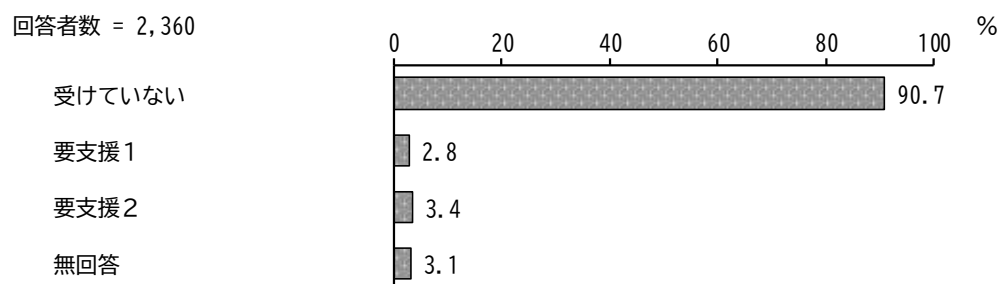
●性別（回答は1つ）

「女性」の割合が52.5%、「男性」の割合が46.4%となっています。



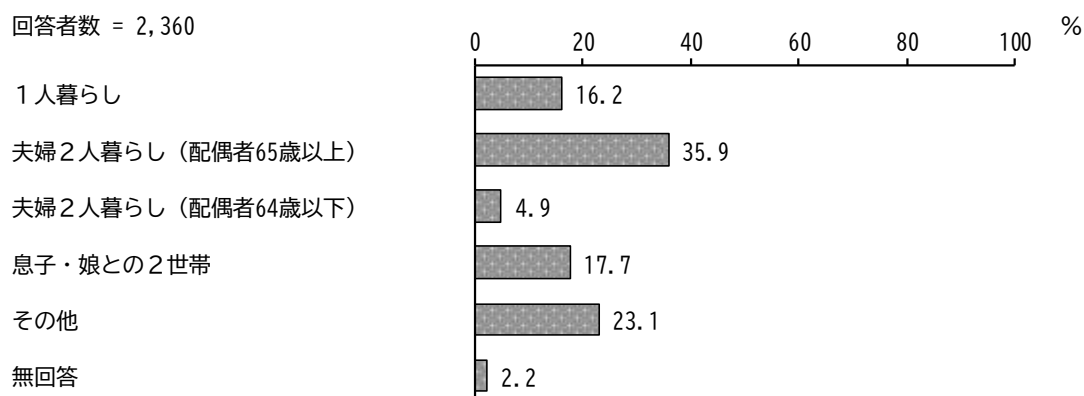
●要支援認定等について（回答は1つ）

「受けていない」の割合が90.7%と最も高くなっています。



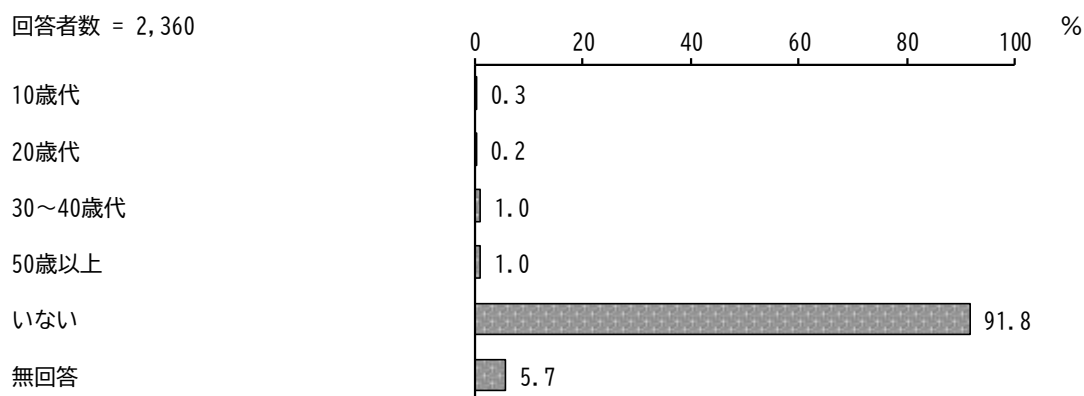
問1 家族構成をお教えてください（回答は1つ）

「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」の割合が35.9%と最も高く、次いで「息子・娘との2世帯」の割合が17.7%、「1人暮らし」の割合が16.2%となっています。



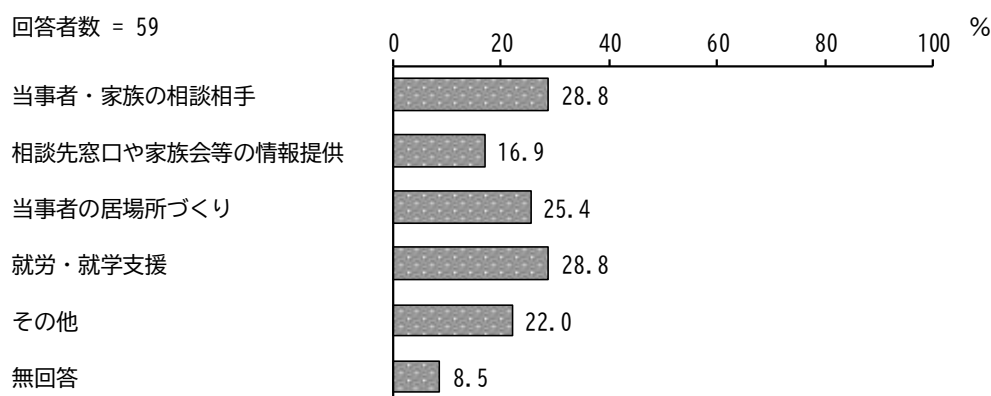
問2 あなたやあなたのご家族にひきこもり状態の方はいらっしゃいますか。 また、ひきこもり状態の方に対して、どのような支援を期待しますか

「50歳以上」の割合が91.8%と最も高くなっています。



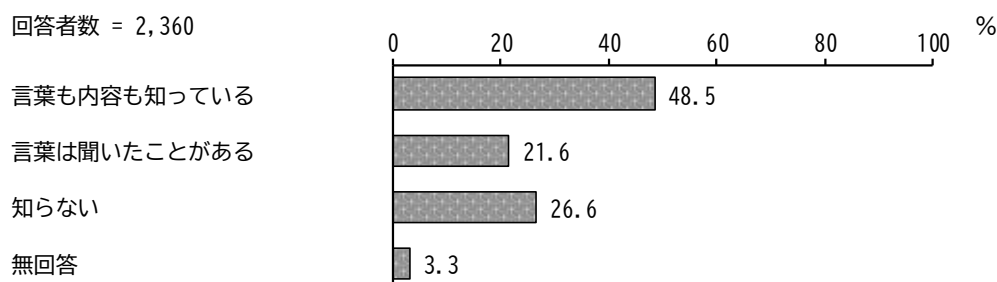
希望する支援方法（いくつでも）

「当事者・家族の相談相手」、「就労・就学支援」の割合が28.8%と最も高く、次いで「当事者の居場所づくり」の割合が25.4%となっています。



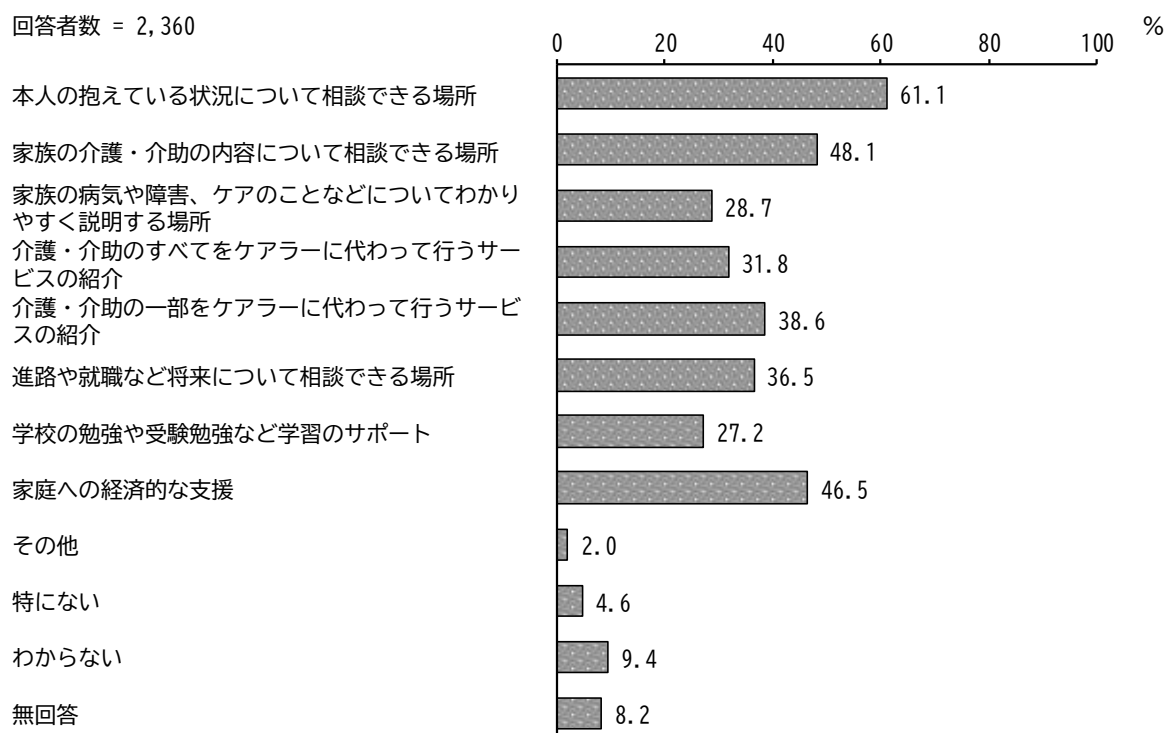
問3 あなたはヤングケアラーという言葉を知っていますか（回答は1つ）

「言葉も内容も知っている」の割合が48.5%と最も高く、次いで「知らない」の割合が26.6%、「言葉は聞いたことがある」の割合が21.6%となっています。



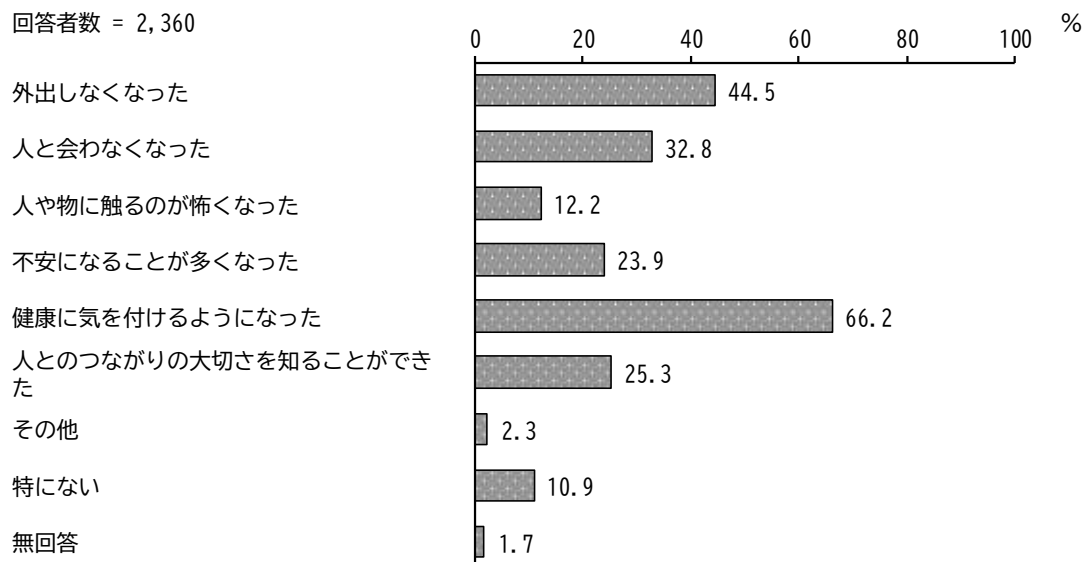
問4 ヤングケアラーを支援するために、必要だと思うことはどのようなことですか（いくつでも）

「本人の抱えている状況について相談できる場所」の割合が61.1%と最も高く、次いで「家族の介護・介助の内容について相談できる場所」の割合が48.1%、「家庭への経済的な支援」の割合が46.5%となっています。



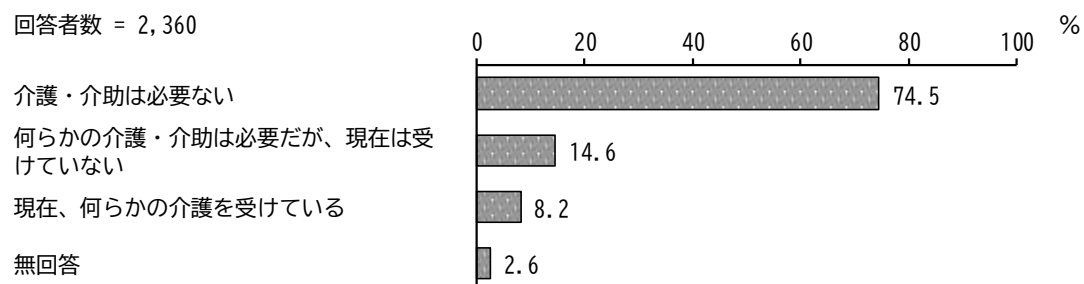
問5 新型コロナウイルス感染症の流行を受けて、あなたの行動や意識に変化はありましたか（いくつでも）

「健康に気を付けるようになった」の割合が 66.2%と最も高く、次いで「外出しなくなった」の割合が 44.5%、「人と会わなくなった」の割合が 32.8%となっています。



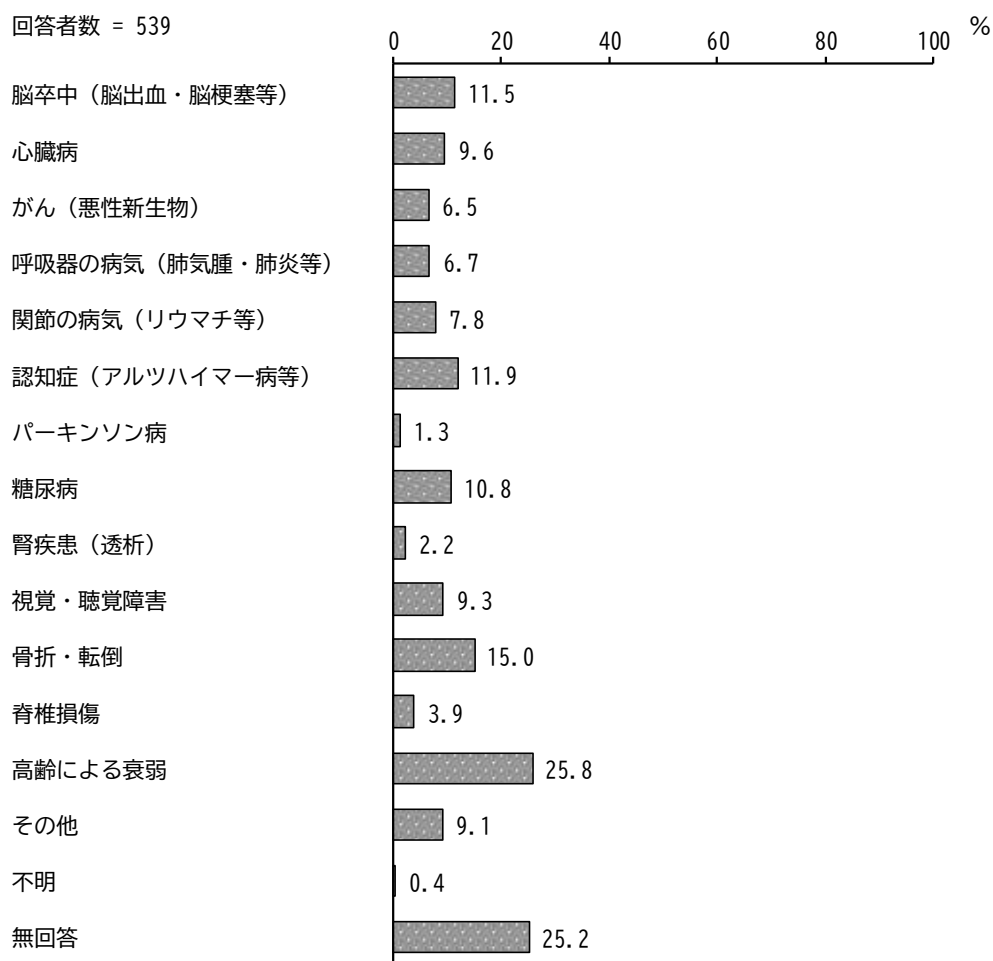
問6 あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか（回答は1つ）

「介護・介助は必要ない」の割合が 74.5%と最も高く、次いで「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」の割合が 14.6%となっています。



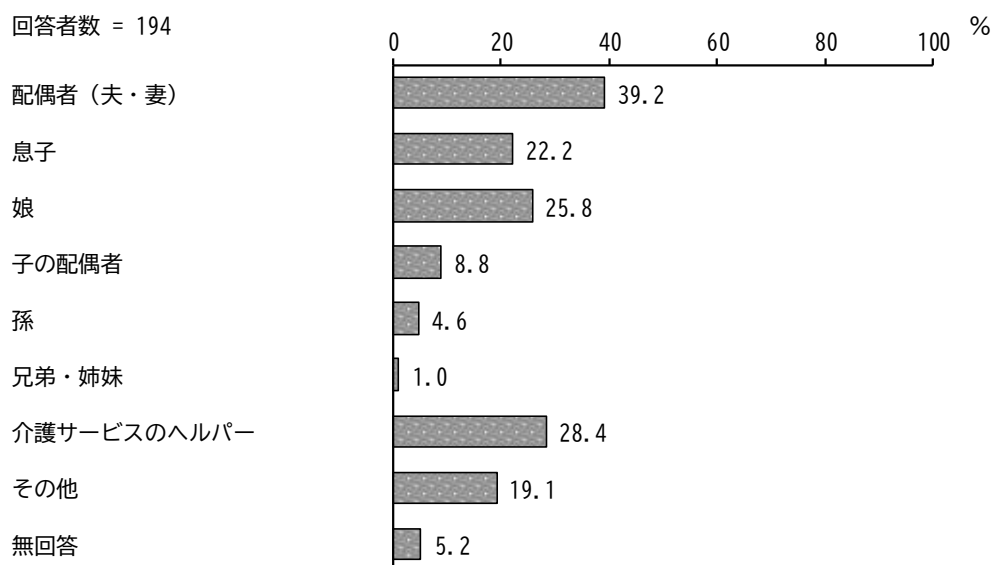
問6-① 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか（いくつでも）

「高齢による衰弱」の割合が25.8%と最も高く、次いで「骨折・転倒」の割合が15.0%、「認知症（アルツハイマー病等）」の割合が11.9%となっています。



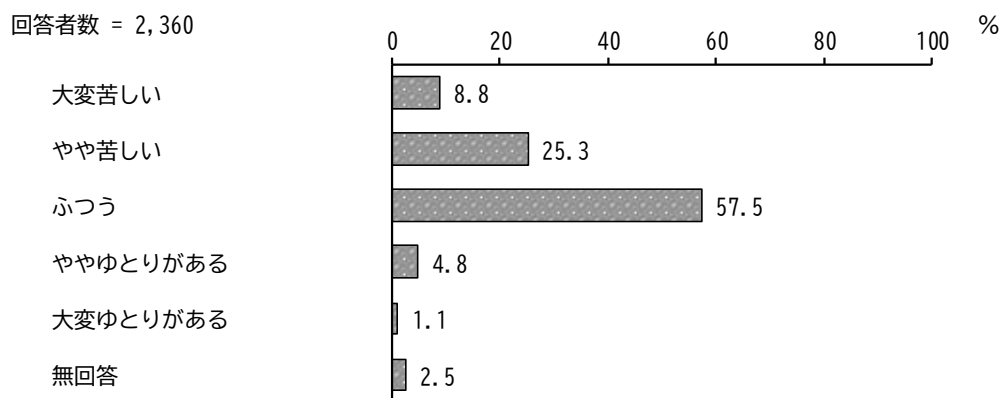
問6-② 主にどなたの介護、介助を受けていますか（いくつでも）

「配偶者（夫・妻）」の割合が 39.2%と最も高く、次いで「介護サービスのヘルパー」の割合が 28.4%、「娘」の割合が 25.8%となっています。



問7 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか（回答は1つ）

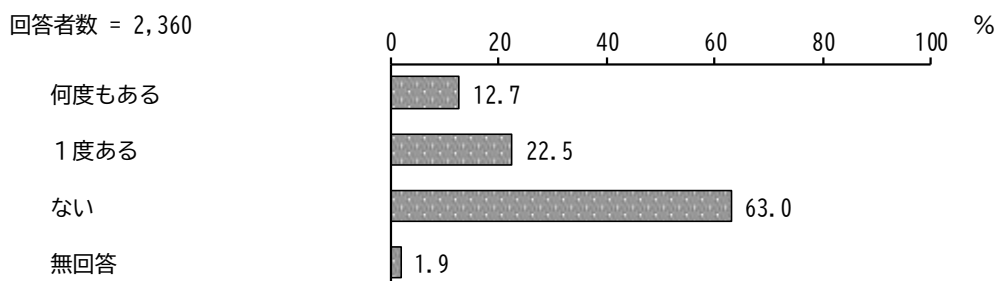
「ふつう」の割合が 57.5%と最も高く、次いで「やや苦しい」の割合が 25.3%となっています。



(2) からだを動かすことについて

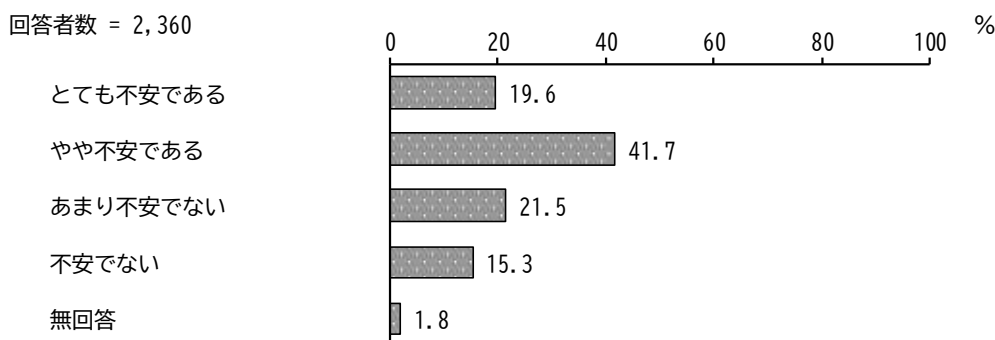
問8 過去1年間に転んだ経験がありますか（回答は1つ）

「ない」の割合が63.0%と最も高く、次いで「1度ある」の割合が22.5%、「何度もある」の割合が12.7%となっています。



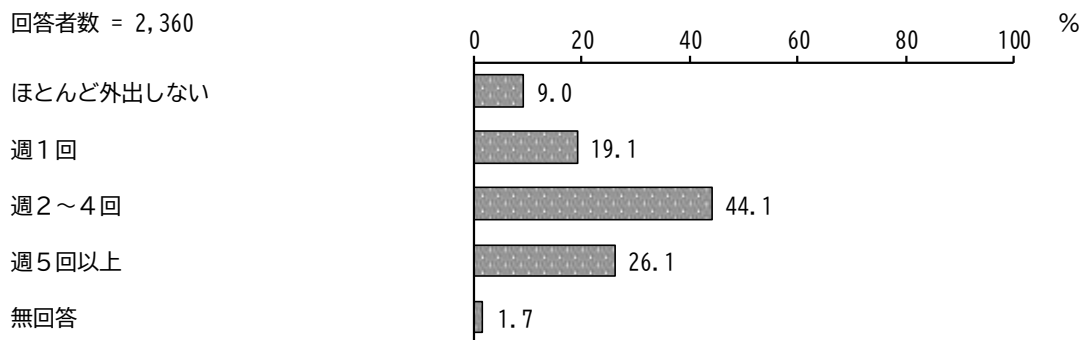
問9 転倒に対する不安は大きいですか（回答は1つ）

「やや不安である」の割合が41.7%と最も高く、次いで「あまり不安でない」の割合が21.5%、「とても不安である」の割合が19.6%となっています。



問10 週に1回以上は外出していますか（回答は1つ）

「週2～4回」の割合が44.1%と最も高く、次いで「週5回以上」の割合が26.1%、「週1回」の割合が19.1%となっています。



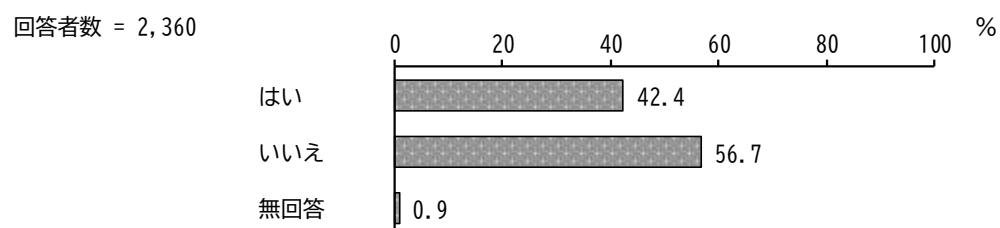
問 11 昨年と比べて外出の回数が減っていますか（回答は1つ）

「減っている」の割合が 32.1%と最も高く、次いで「あまり減っていない」の割合が 31.4%、「減っていない」の割合が 27.8%となっています。



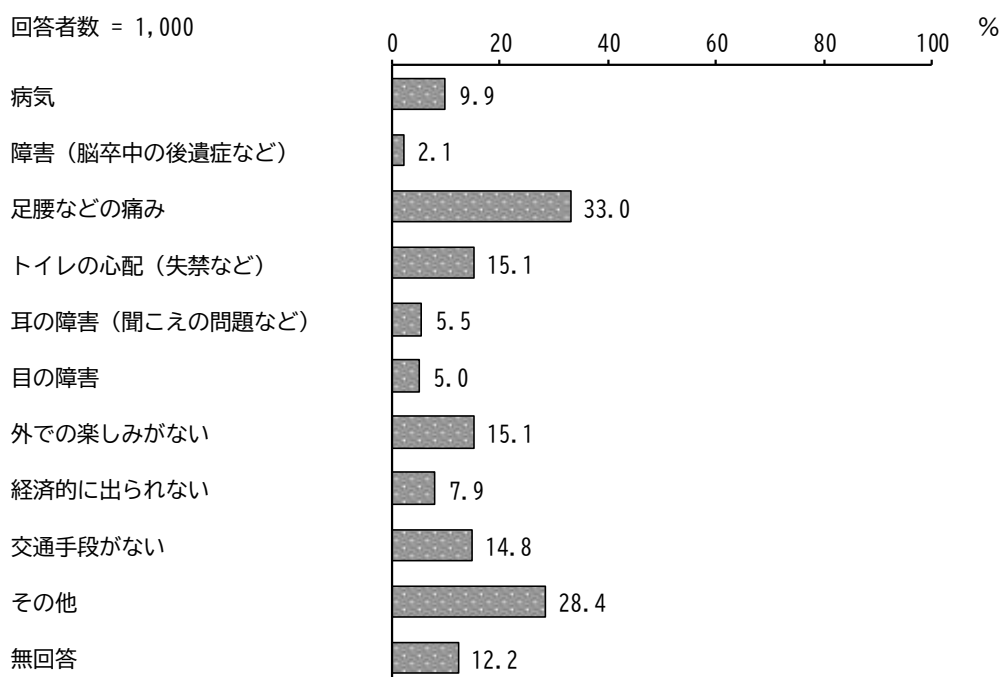
問 12 外出を控えていますか（回答は1つ）

「はい」の割合が 42.4%、「いいえ」の割合が 56.7%となっています。



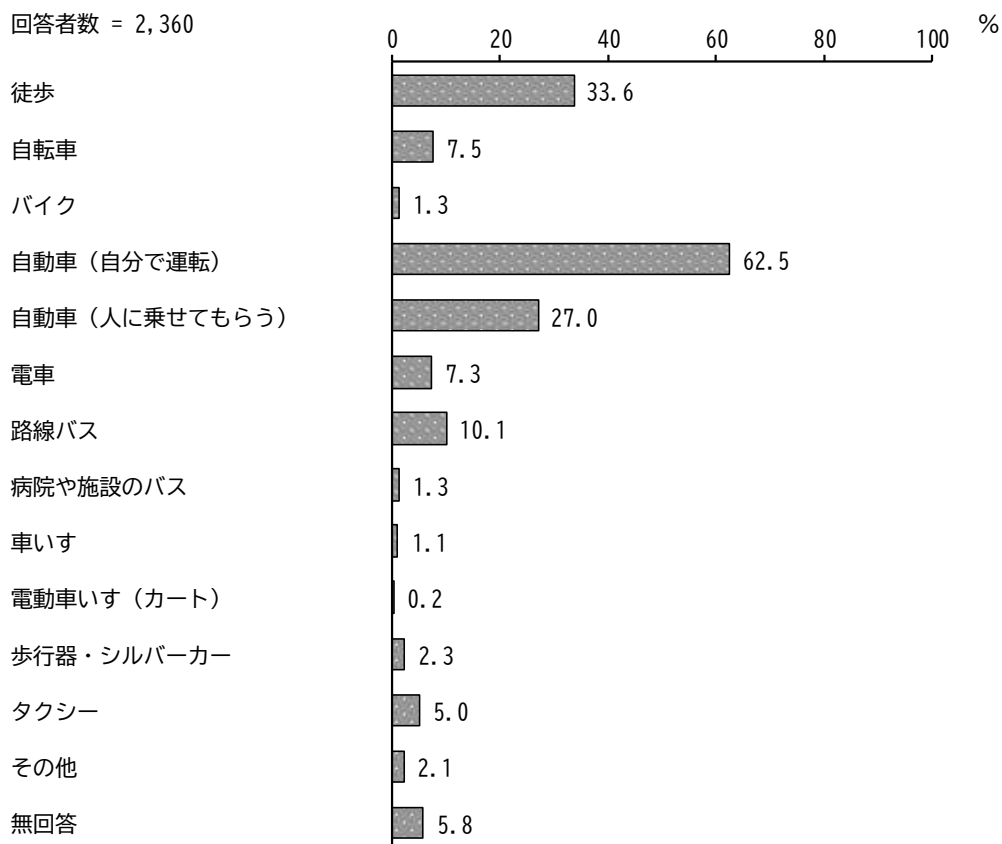
問 12-① 外出を控えている理由は、次のどれですか（いくつでも）

「足腰などの痛み」の割合が 33.0%と最も高く、次いで「トイレの心配（失禁など）」、「外での楽しみがない」の割合が 15.1%となっています。



問 13 外出する際の移動手段は何ですか（いくつでも）

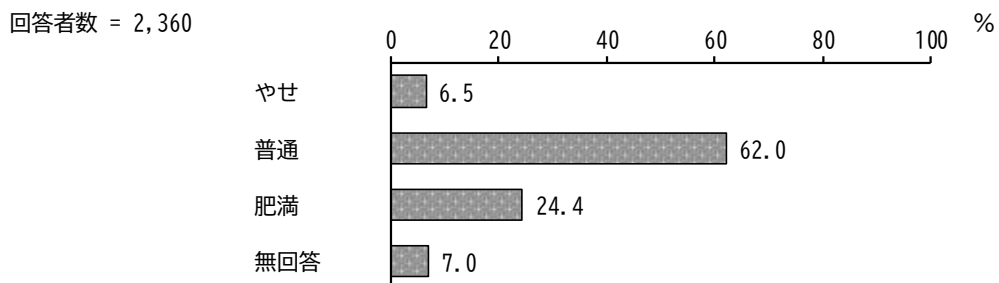
「自動車（自分で運転）」の割合が 62.5%と最も高く、次いで「徒歩」の割合が 33.6%、「自動車（人に乗せてもらう）」の割合が 27.0%となっています。



（3）食べることについて

問 14 B I M

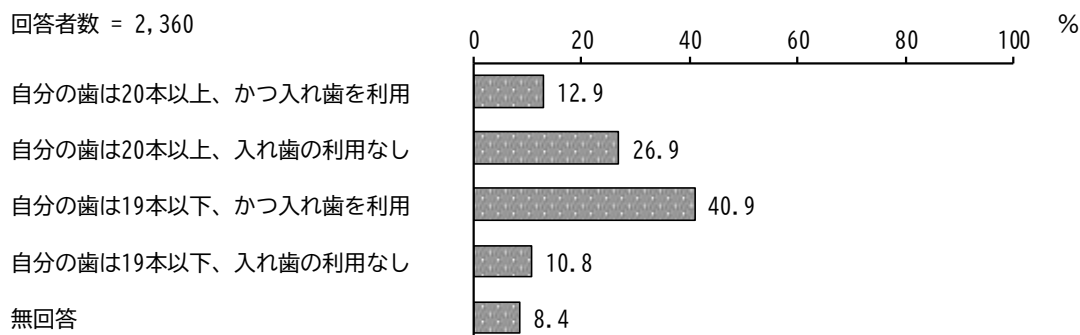
「普通」の割合が 62.0%と最も高く、次いで「肥満」の割合が 24.4%となっています。



問 15 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください（回答は1つ）

「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」の割合が40.9%と最も高く、次いで「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」の割合が26.9%、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」の割合が12.9%となっています。

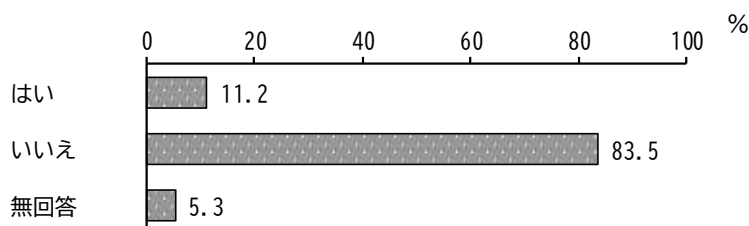
回答者数 = 2,360



問 16 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか（回答は1つ）

「はい」の割合が11.2%、「いいえ」の割合が83.5%となっています。

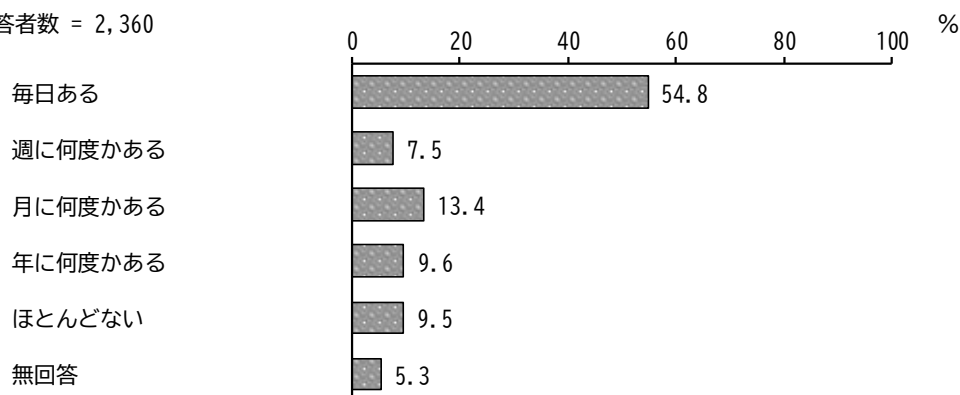
回答者数 = 2,360



問 17 どなたかと食事をとにもする機会がありますか（回答は1つ）

「毎日ある」の割合が54.8%と最も高く、次いで「月に何度かある」の割合が13.4%となっています。

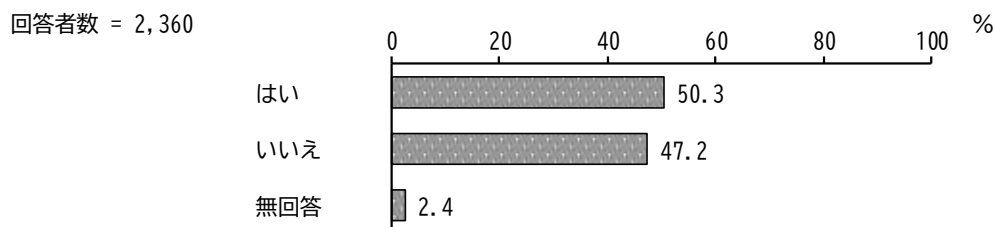
回答者数 = 2,360



(4) 毎日の生活について

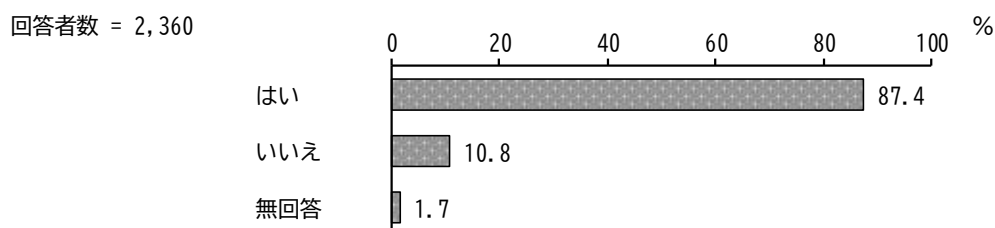
問 18 物忘れが多いと感じますか (回答は1つ)

「はい」の割合が 50.3%、「いいえ」の割合が 47.2%となっています。



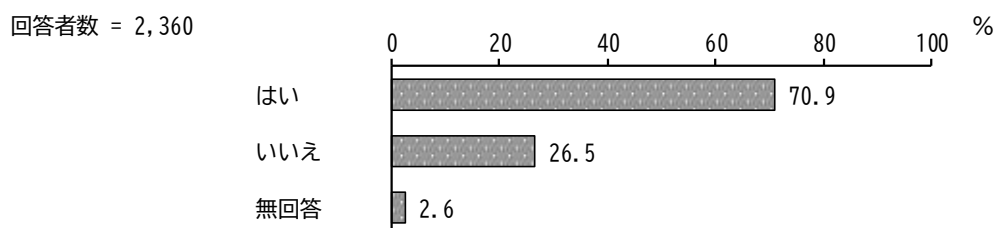
問 18 健康についての記事や番組に関心がありますか (回答は1つ)

「はい」の割合が 87.4%、「いいえ」の割合が 10.8%となっています。



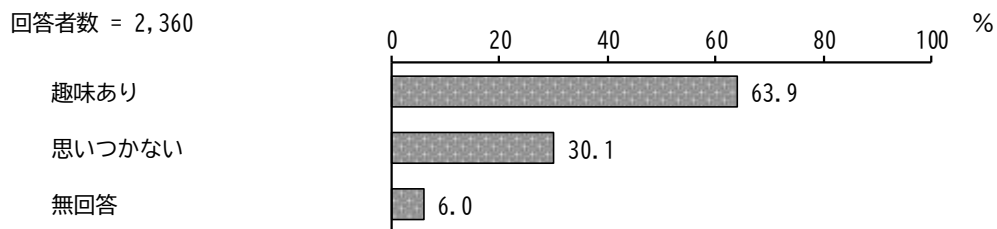
問 20 家族や友人の相談にのっていますか (回答は1つ)

「はい」の割合が 70.9%、「いいえ」の割合が 26.5%となっています。



問 21 趣味はありますか（回答は1つ）

「趣味あり」の割合が 63.9%、「思いつかない」の割合が 30.1%となっています。



【幸福度別】

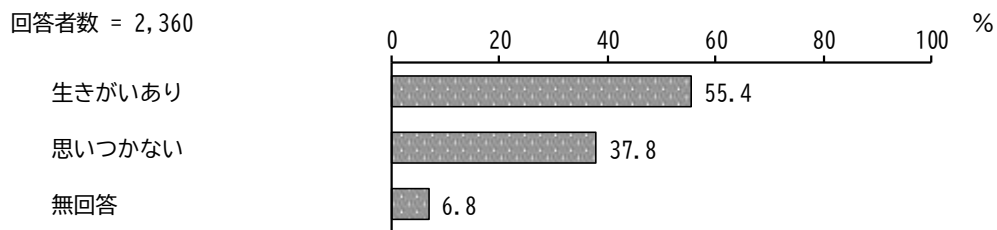
幸福度別にみると、0～3点で「思いつかない」の割合が、4～6点で「思いつかない」の割合が、7～10点で「趣味あり」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	趣味あり	思いつかない	無回答
全 体	2360	63.9	30.1	6.0
0～3点	120	37.5	53.3	9.2
4～6点	795	54.6	40.1	5.3
7～10点	1314	73.7	21.5	4.8

問 22 生きがいがありますか（回答は1つ）

「生きがいあり」の割合が55.4%、「思いつかない」の割合が37.8%となっています。



【幸福度別】

幸福度別にみると、0～3点で「思いつかない」の割合が、4～6点で「思いつかない」の割合が、7～10点で「生きがいあり」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	生きがいあり	思いつかない	無回答
全 体	2360	55.4	37.8	6.8
0～3点	120	19.2	75.8	5.0
4～6点	795	41.1	53.3	5.5
7～10点	1314	68.5	25.2	6.3

(5) 地域の活動について

問 23 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか

※① - ⑧それぞれに回答してください

『⑦町内会・自治会』で「年に数回」の割合が、『⑧収入のある仕事』で「週4回以上」の割合が高くなっています。

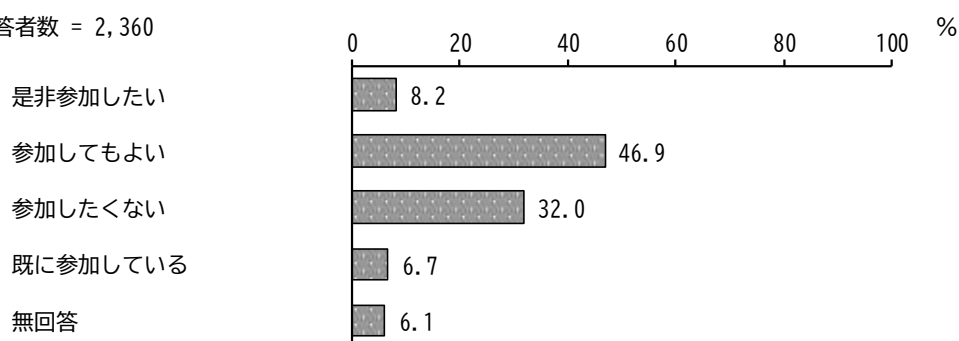
単位：％

区分	全 体	週 4 回 以 上	週 2 ～ 3 回	週 1 回	月 1 ～ 3 回	年 に 数 回	参 加 し て い な い	無 回 答
①ボランティアのグループ	2360	0.2	0.6	1.2	3.5	7.9	63.8	22.8
②スポーツ関係のグループやクラブ	2360	1.9	4.3	5.0	4.4	2.3	61.6	20.5
③趣味関係のグループ	2360	0.8	2.3	4.0	9.6	5.8	57.5	19.9
④学習・教養サークル	2360	0.4	0.5	1.1	2.8	2.3	68.9	24.0
⑤介護予防のための通いの場 (自治会館等で実施する健康体操)	2360	0.7	0.5	3.6	1.2	0.9	69.9	23.2
⑥老人クラブ	2360	0.2	0.5	0.7	1.9	3.6	70.4	22.8
⑦町内会・自治会	2360	0.1	0.3	0.7	4.9	26.8	45.2	21.9
⑧収入のある仕事	2360	11.7	8.8	1.8	2.1	2.8	52.2	20.5

問 24 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか（回答は1つ）

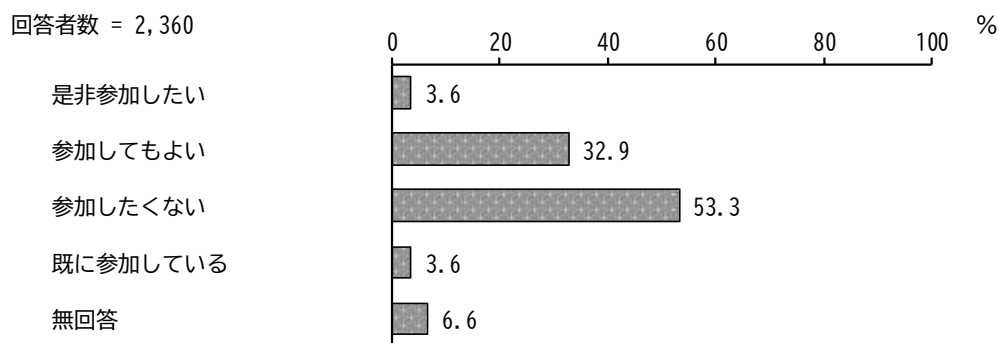
「参加してもよい」の割合が46.9%と最も高く、次いで「参加したくない」の割合が32.0%となっています。

回答者数 = 2,360



問 25 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか（回答は1つ）

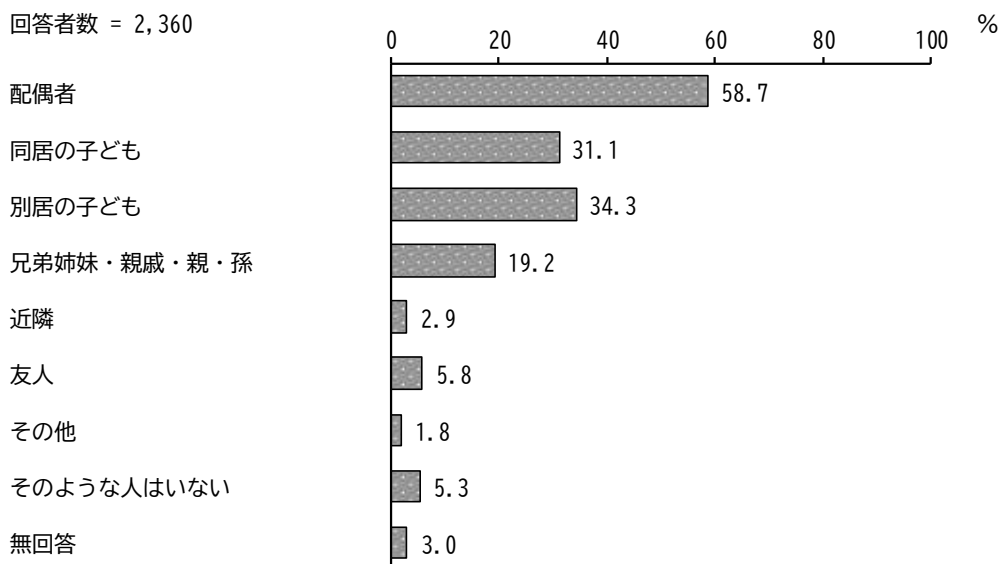
「参加したくない」の割合が 53.3%と最も高く、次いで「参加してもよい」の割合が 32.9%となっています。



（6）たすけあいについて

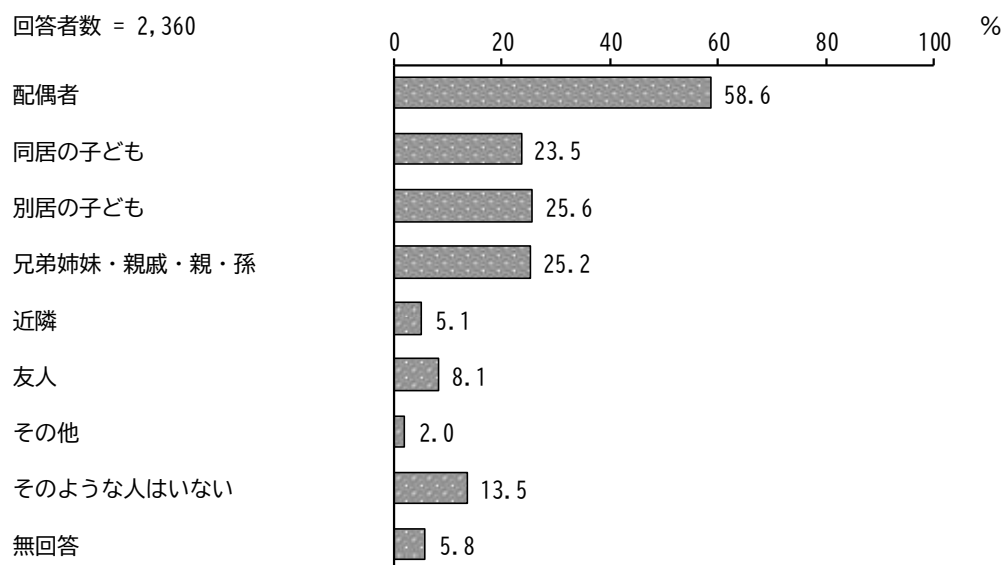
問 26 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人（いくつでも）

「配偶者」の割合が 58.7%と最も高く、次いで「別居の子ども」の割合が 34.3%、「同居の子ども」の割合が 31.1%となっています。



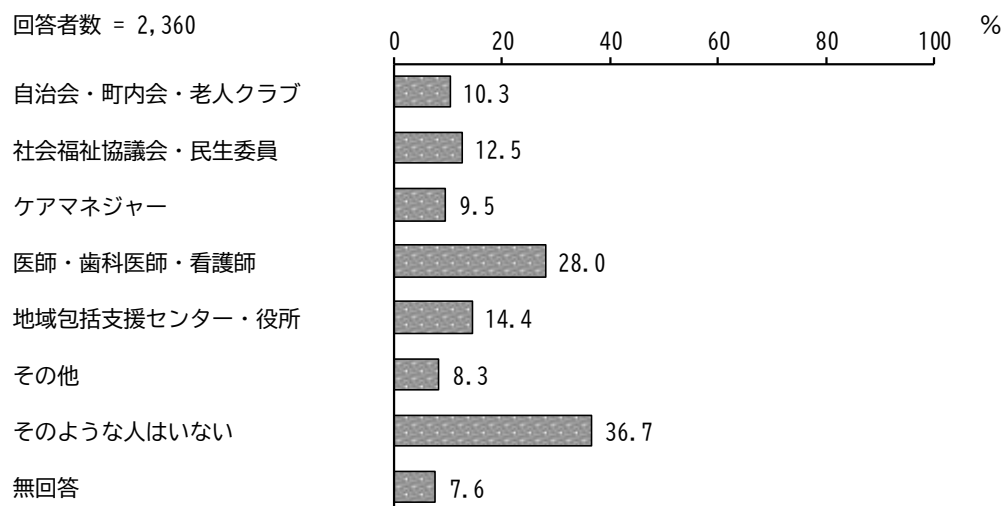
問 27 反対に、看病や世話をしあげる人（いくつでも）

「配偶者」の割合が 58.6%と最も高く、次いで「別居の子ども」の割合が 25.6%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」の割合が 25.2%となっています。



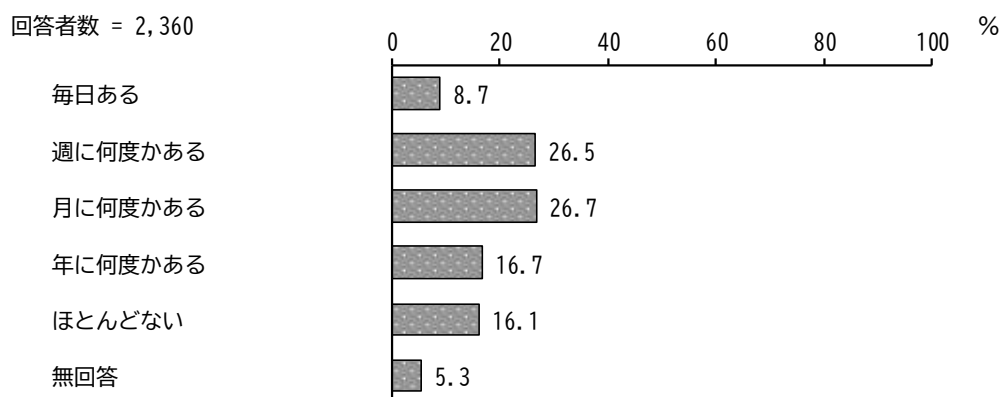
問 28 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください（いくつでも）

「そのような人はいない」の割合が 36.7%と最も高く、次いで「医師・歯科医師・看護師」の割合が 28.0%、「地域包括支援センター・役所」の割合が 14.4%となっています。



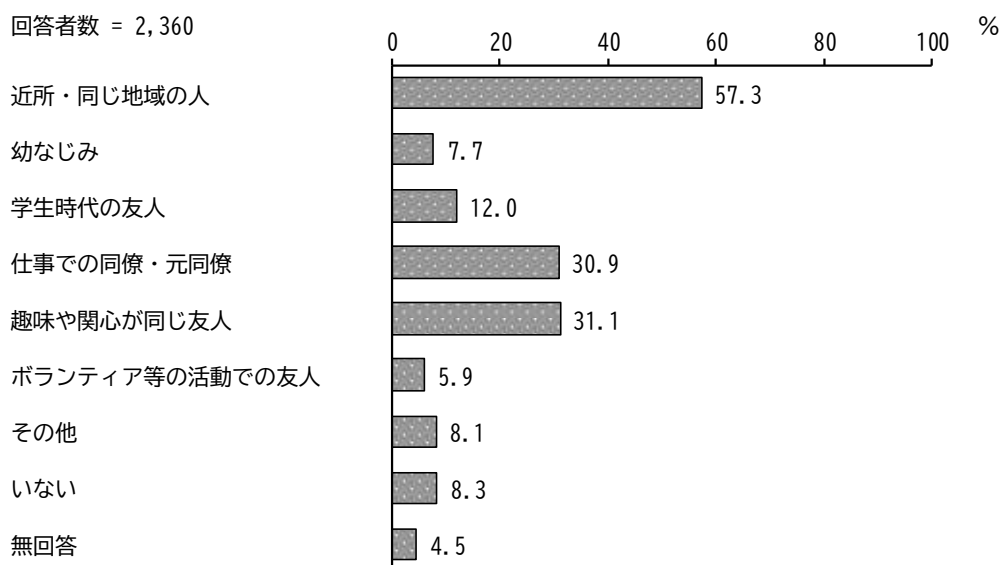
問 28 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか（回答は1つ）

「月に何度かある」の割合が 26.7%と最も高く、次いで「週に何度かある」の割合が 26.5%、「年に何度かある」の割合が 16.7%となっています。



問 30 よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか（いくつでも）

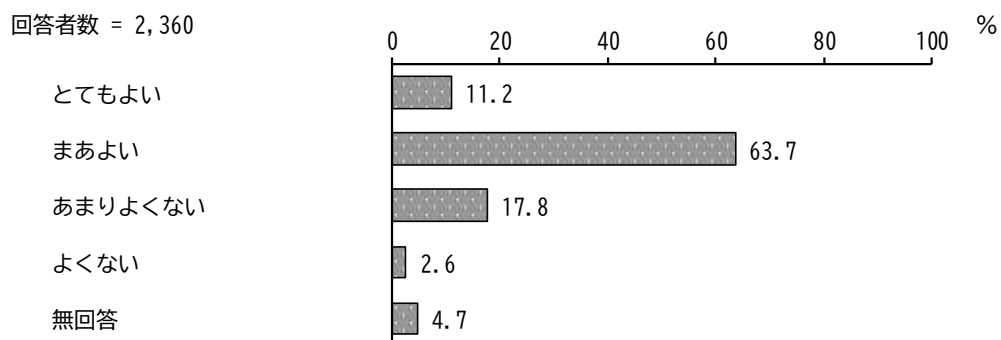
「近所・同じ地域の人」の割合が 57.3%と最も高く、次いで「趣味や関心が同じ友人」の割合が 31.1%、「仕事での同僚・元同僚」の割合が 30.9%となっています。



(7) 健康について

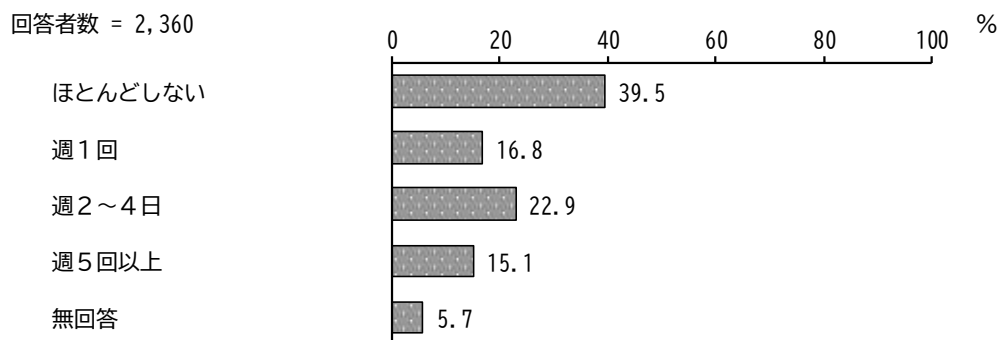
問 31 現在のあなたの健康状態はいかがですか（回答は1つ）

「まあよい」の割合が 63.7%と最も高く、次いで「あまりよくない」の割合が 17.8%、「とてもよい」の割合が 11.2%となっています。



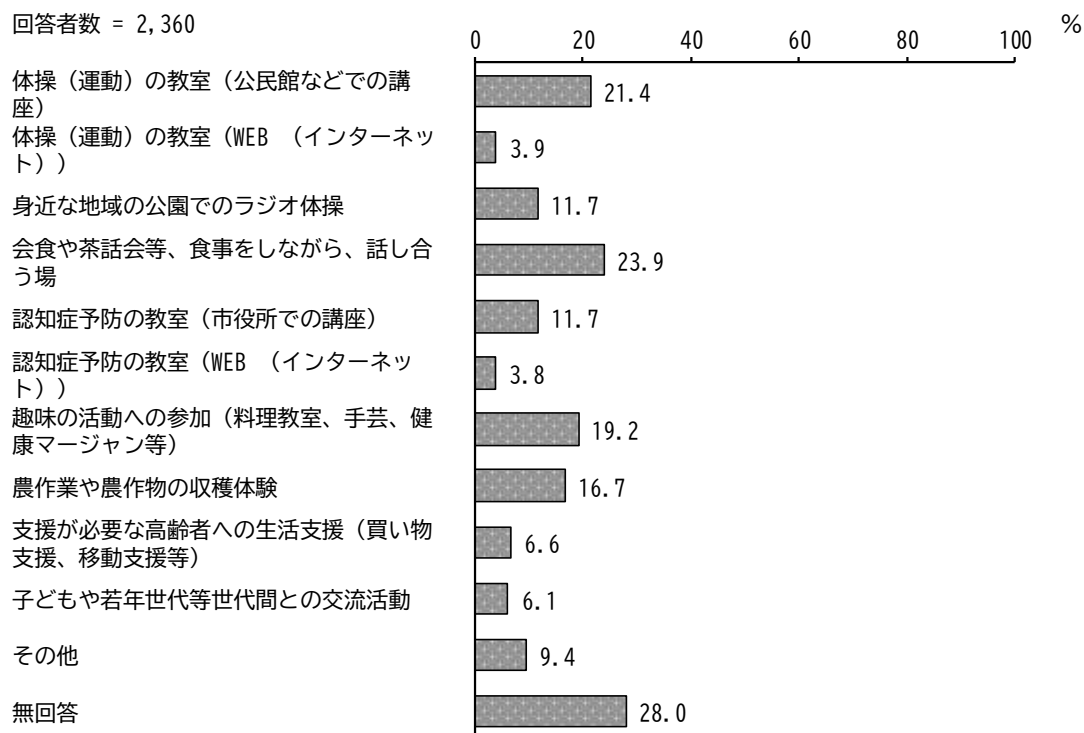
問 32 軽い運動・体操もしくは定期的な運動・スポーツを週1回以上していますか（回答は1つ）

「ほとんどしない」の割合が 39.5%と最も高く、次いで「週2～4日」の割合が 22.9%、「週1回」の割合が 16.8%となっています。



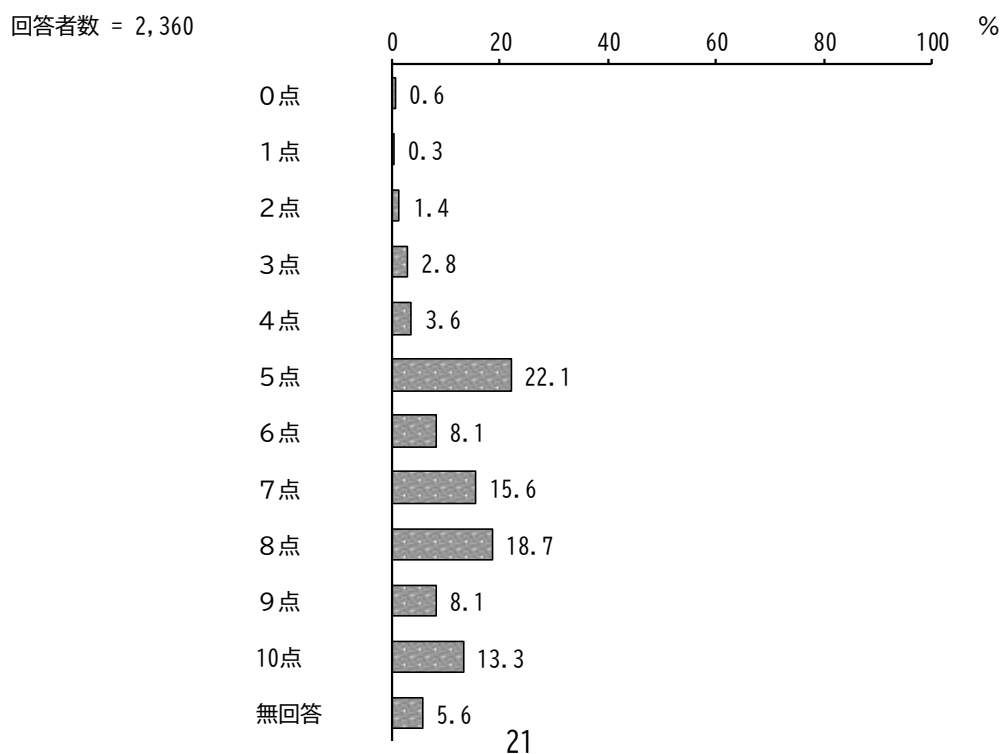
問 33 あなたは以下のどの介護予防や健康づくりの活動に参加したいですか（いくつでも）

「会食や茶話会等、食事をしながら、話し合う場」の割合が 23.9%と最も高く、次いで「体操（運動）の教室（公民館などでの講座）」の割合が 21.4%、「趣味の活動への参加（料理教室、手芸、健康マージャン等）」の割合が 19.2%となっています。



問 34 あなたは、現在どの程度幸せですか

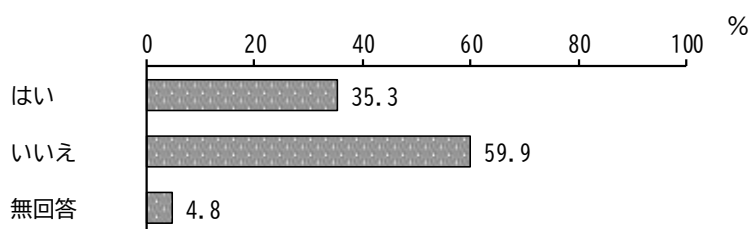
「5点」の割合が 22.1%と最も高く、次いで「8点」の割合が 18.7%、「7点」の割合が 15.6%となっています。



問 35 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか（回答は1つ）

「はい」の割合が35.3%、「いいえ」の割合が59.9%となっています。

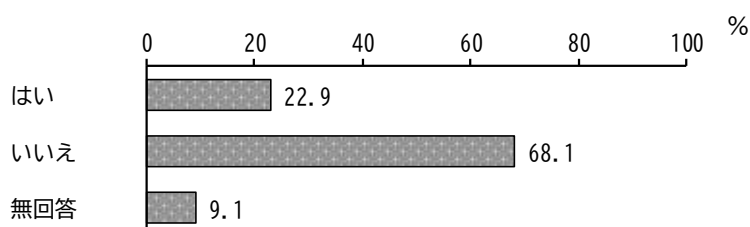
回答者数 = 2,360



問 36 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか（回答は1つ）

「はい」の割合が22.9%、「いいえ」の割合が68.1%となっています。

回答者数 = 2,360

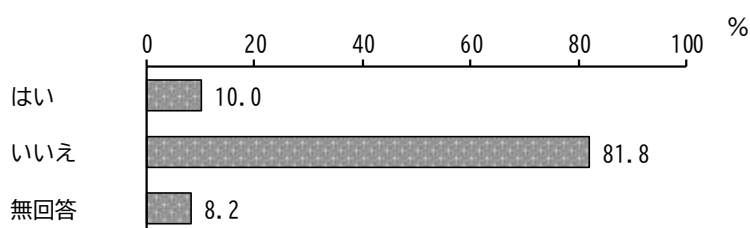


（８）認知症にかかる相談窓口の把握について

問 37 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか（回答は1つ）

「はい」の割合が10.0%、「いいえ」の割合が81.8%となっています。

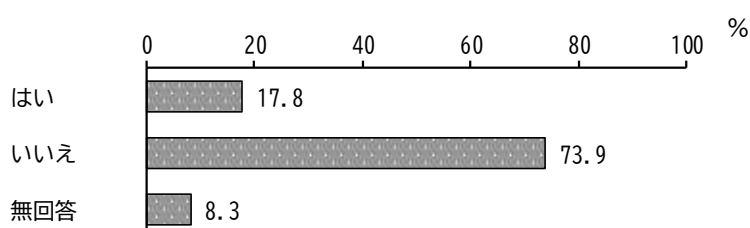
回答者数 = 2,360



問 38 認知症に関する相談窓口を知っていますか（回答は1つ）

「はい」の割合が17.8%、「いいえ」の割合が73.9%となっています。

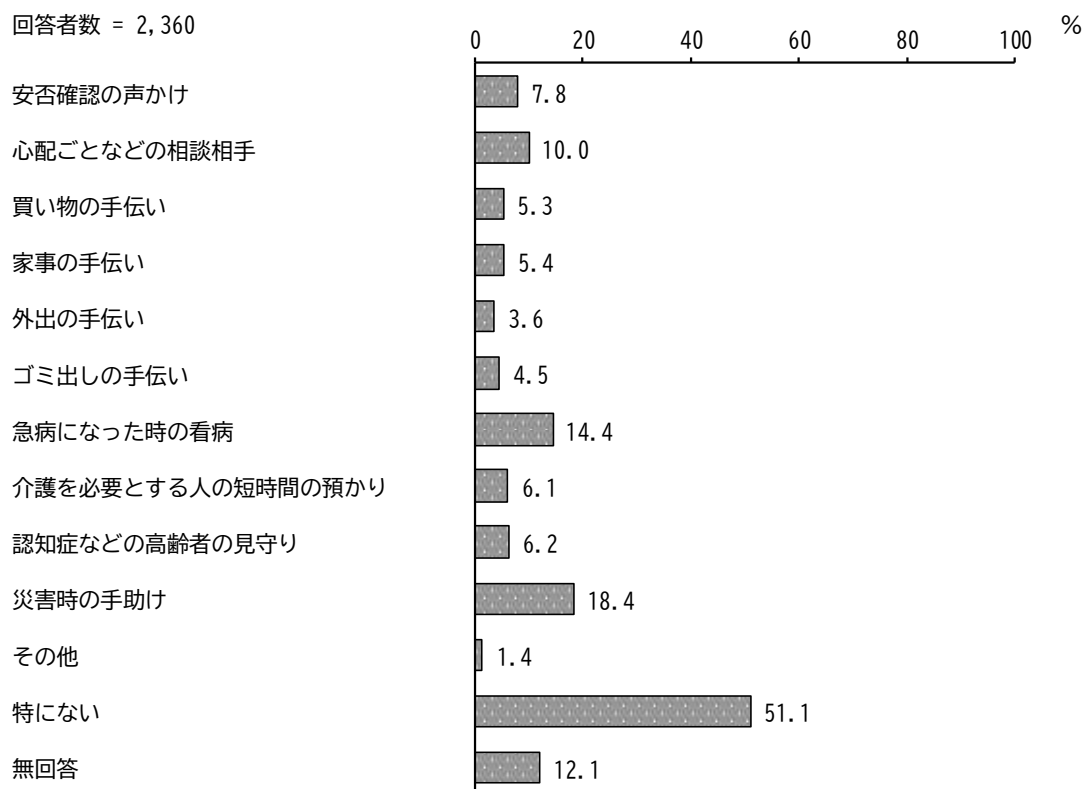
回答者数 = 2,360



(9) 生活支援について

問 39 日常的に受けたいと思う支援はありますか（いくつでも）

「特にない」の割合が 51.1%と最も高く、次いで「災害時の手助け」の割合が 18.4%、「急病になった時の看病」の割合が 14.4%となっています。



2 生活機能評価等に関する分析

(1) 機能別リスク該当者割合の分析

①運動器

国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、5項目のうち3項目以上に該当する人を運動器のリスク該当者と判定しました。

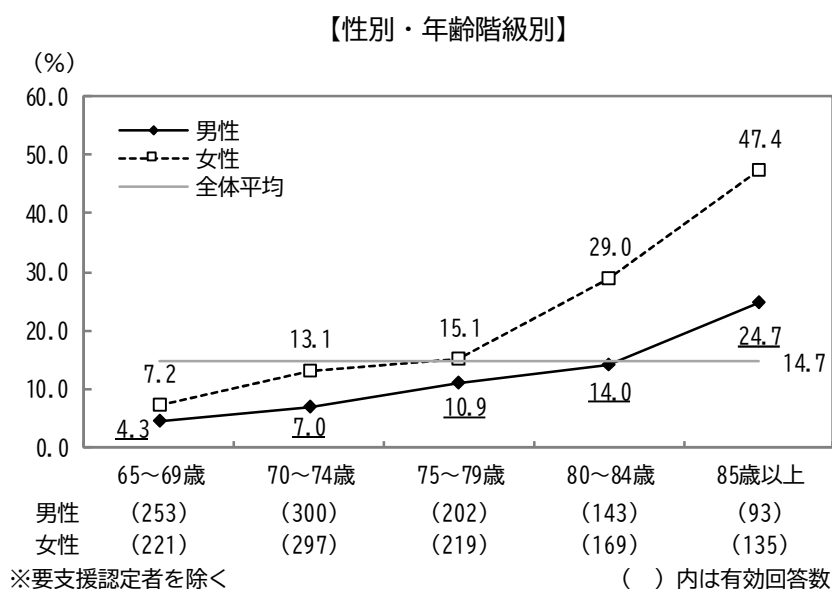
【判定設問】

設問	該当する選択肢
階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。	3. できない
椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。	3. できない
15分位続けて歩いていますか。	3. できない
過去1年間に転んだ経験がありますか。	1. 何度もある 2. 1度ある
転倒に対する不安は大きいですか。	1. とても不安である 2. やや不安である

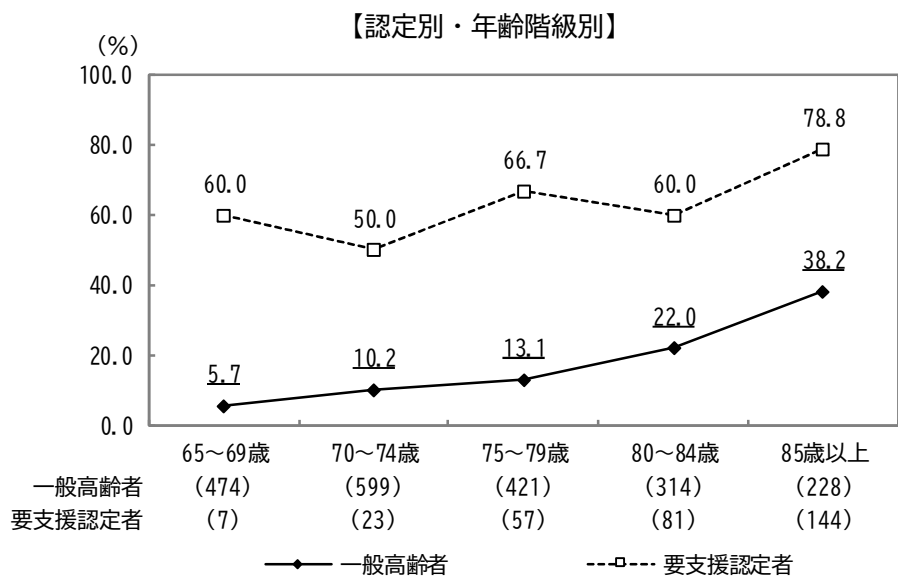
【リスク該当状況】

国の手引きに基づく運動器の評価結果をみると、全体平均で14.7%が運動器の機能低下該当者となっています。

性別・年齢階級別にみると、女性では、すべての年代で男性に比べ該当者割合が高く、85歳以上では47.4%と75～79歳に比べ32.3ポイント上昇しています。一方、男性では、85歳以上では24.7%と80～84歳に比べ10.7ポイント上昇しています。したがって、男性は80歳以降、女性は75歳以降で運動器におけるリスクが顕在化し、特に女性でリスクが高くなっています。

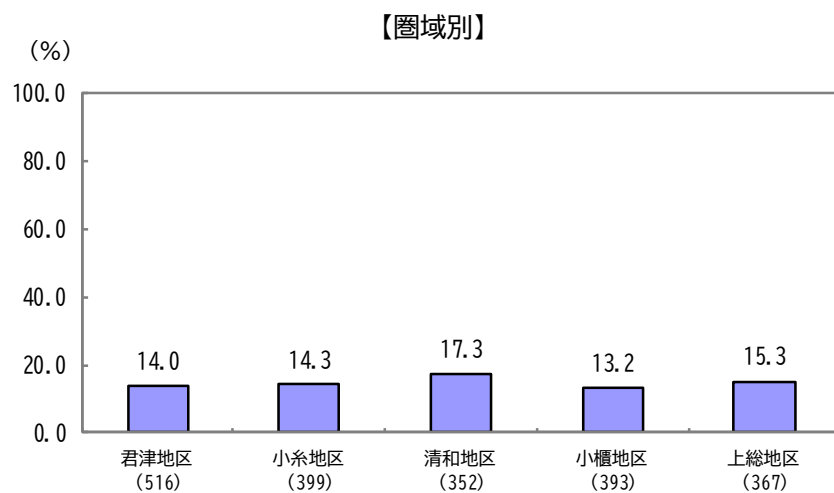


認定別・年齢階級別にみると、一般高齢者に比べ、要支援対象者では割合がとても高くなっています。要支援対象者をみると、85歳以上で該当者が70%以上となっています。



圏域別にみると、清和地区、上総地区で該当者割合が全体平均の14.8%を超えています。

また、最も高い圏域は清和地区で17.3%、最も低い圏域は小櫃地区で13.2%となっており、4.1ポイントの差となっています。



※要支援認定者を除く

②閉じこもり

国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、該当する人を閉じこもりのリスク該当者と判定しました。

【判定設問】

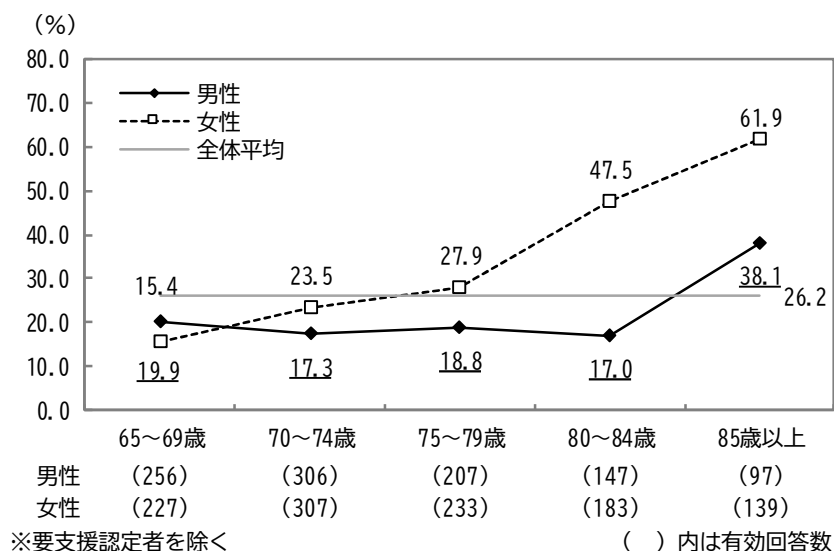
設問	該当する選択肢
週に1回以上は外出していますか。	1. ほとんど外出しない 2. 週1回

【リスク該当状況】

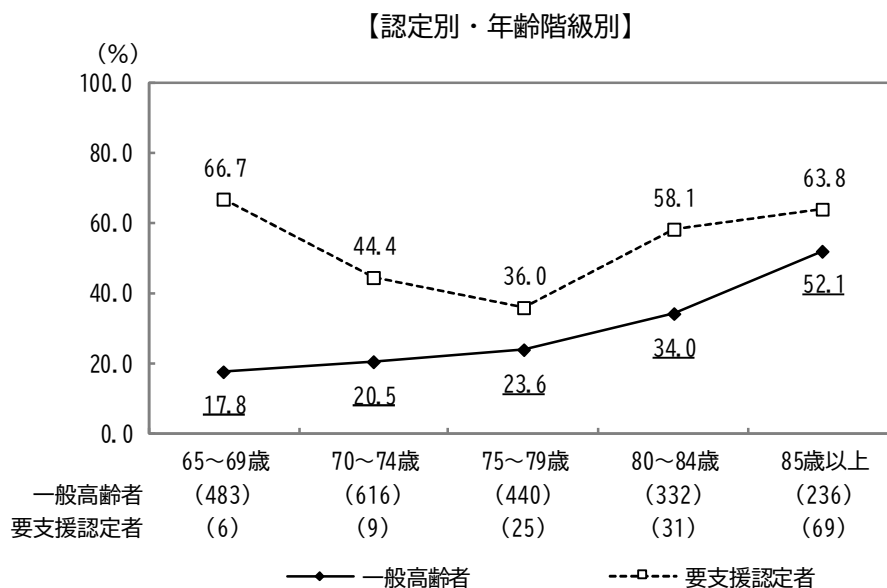
国の手引きに基づく閉じこもりの評価結果をみると、全体平均で26.2%が閉じこもりのリスク該当者となっています。

性別・年齢階級別にみると、女性では、85歳以上で61.9%と、80～84歳に比べ14.4ポイント上昇しています。また、70歳以上では男性に比べて女性で割合が高くなっています。また、男性では85歳以上で加齢に伴う身体状態の悪化などにより急激に外出の頻度が減少しています。

【性別・年齢階級別】

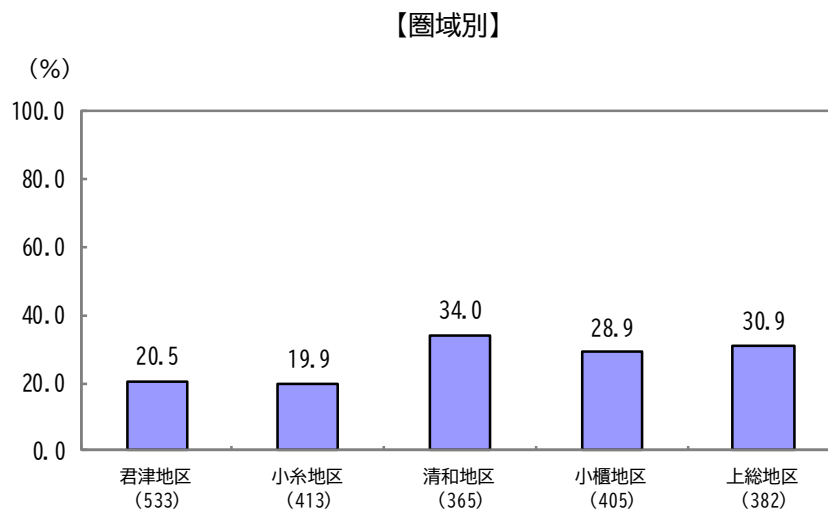


認定別・年齢階級別にみると、一般高齢者に比べ、要支援対象者では割合がとて高くなっています。一般高齢者では、85歳以上で52.1%と80～84歳に比べ18.1ポイント上昇しています。



圏域別にみると、清和地区、小櫃地区、上総地区で該当者割合が全体平均の26.8%を超えています。

また、最も高い圏域は清和地区で34.0%、最も低い圏域は小糸地区で19.9%となっており、14.1ポイントの差となっています。



※要支援認定者を除く

③転倒

国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、該当する人を転倒のリスク該当者と判定しました。

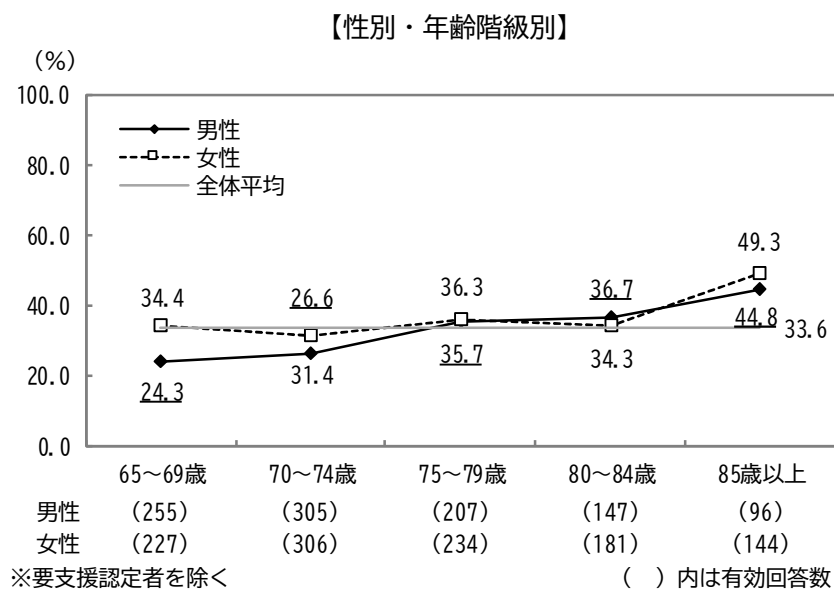
【判定設問】

設問	該当する選択肢
過去1年間に転んだ経験がありますか。	1. 何度もある 2. 1度ある

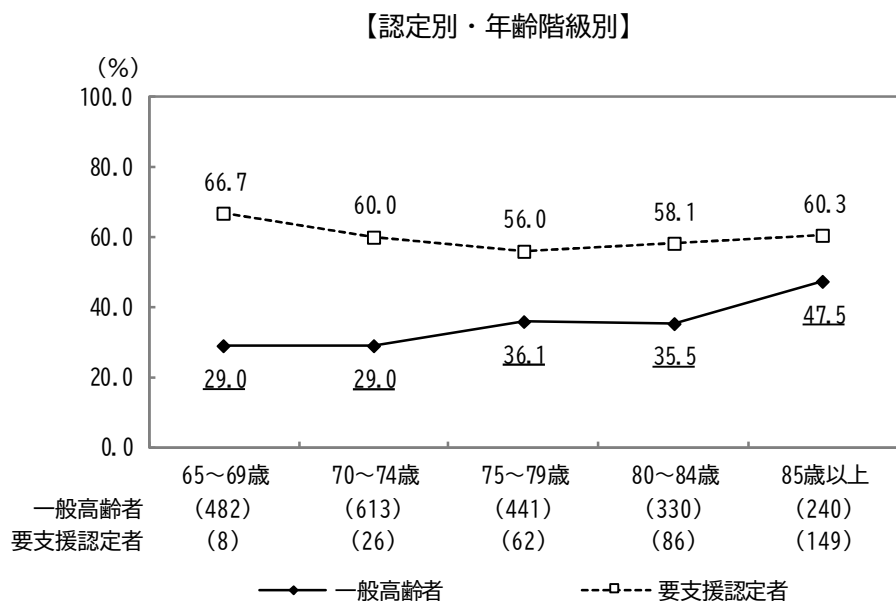
【リスク該当状況】

国の手引きに基づく転倒の評価結果をみると、全体平均で33.6%が転倒リスクの該当者となっています。

性別・年齢階級別にみると、男性と女性を比べると70歳以上から大きな差はありません。

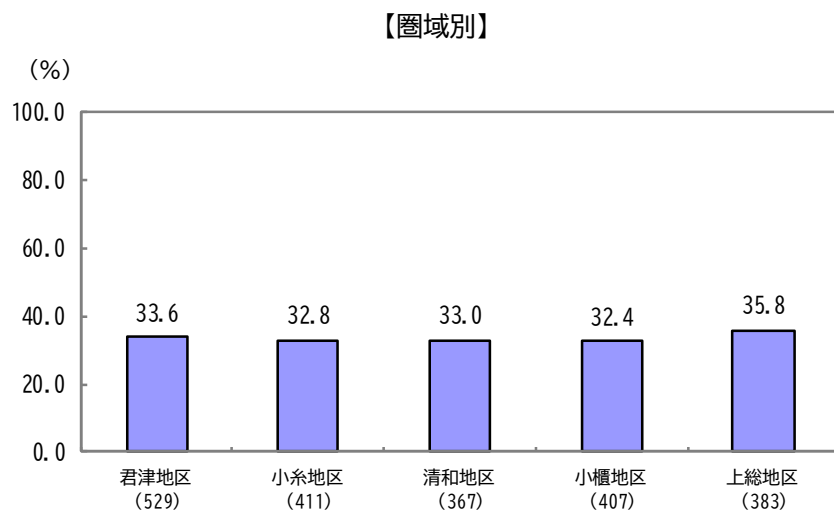


認定別・年齢階級別にみると、一般高齢者に比べ、要支援対象者では割合がとても高くなっています。一般高齢者では、年齢が上がるにつれて割合が徐々に上昇しています。



圏域別にみると、君津地区、で該当者割合が全体平均の 33.5%を超えています。

また、最も高い圏域は上総地区で 35.8%、最も低い圏域は小櫃地区で 32.4%となっており、3.4 ポイントの差となっています。



※要支援認定者を除く

④栄養

国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、2項目のすべてに該当する人を栄養のリスク該当者と判定しました。

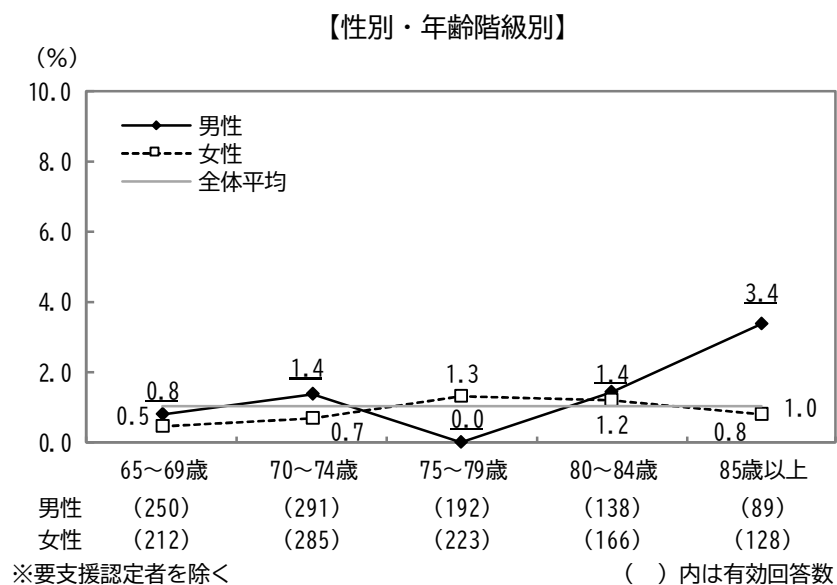
【判定設問】

設問	該当する選択肢
身長・体重をご記入ください。	BMI 18.5 未満
6か月間で2～3 kg 以上の体重減少がありましたか。	1. はい

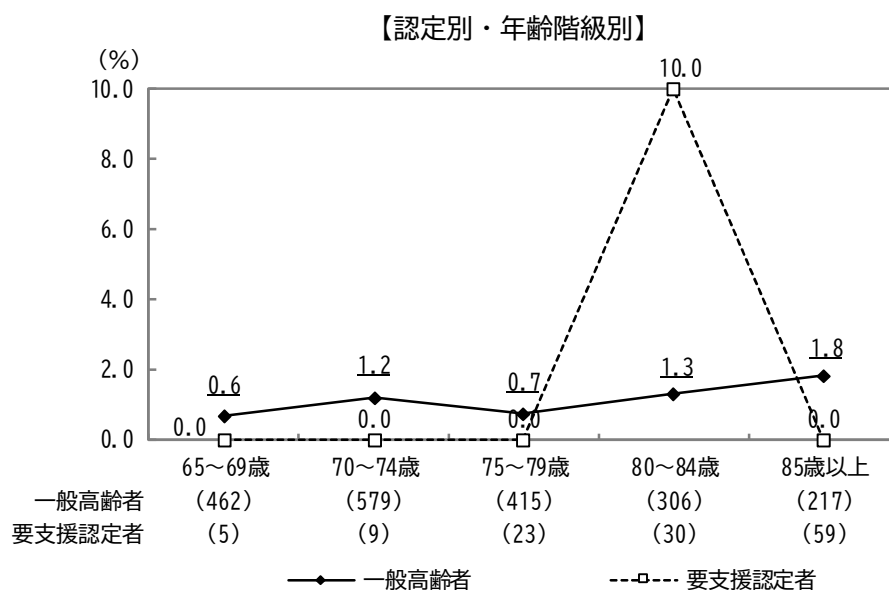
【リスク該当状況】

国の手引きに基づく栄養の評価結果をみると、全体平均で 1.0%が低栄養リスクの該当者となっています。

性別・年齢階級別にみると、男性と女性を比べると 85 歳以上でも 2.6 ポイントと大きな差はありません。

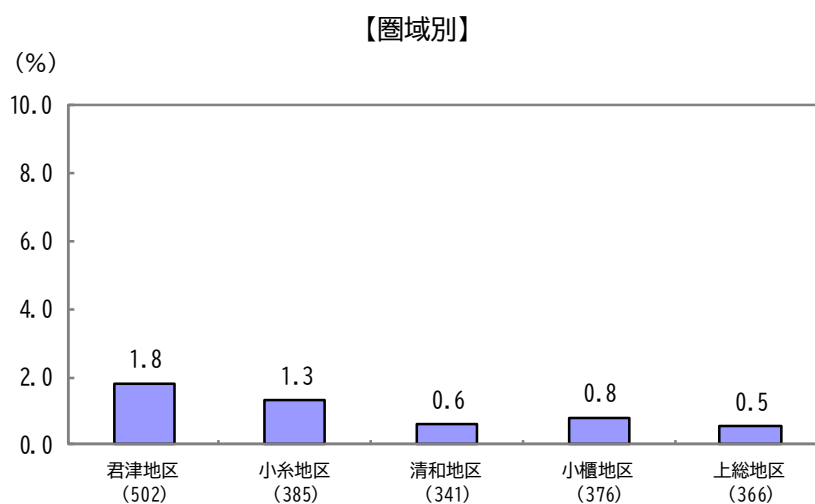


認定別・年齢階級別にみると、該当者割合は、要支援認定者の80～84歳で10.0%と最も高くなっていますが、他のリスクに比べ加齢に伴うリスクへの影響は少ないことがうかがえます。



圏域別にみると、君津地区、小糸地区で該当者割合が全体平均の1.0%を超えています。

また、最も高い圏域は君津地区で1.8%、最も低い圏域は上総地区で0.5%となっており、1.3ポイントの差となっています。



※要支援認定者を除く

⑤口腔

国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、3項目のうち2項目以上に該当する人を口腔のリスク該当者と判定しました。

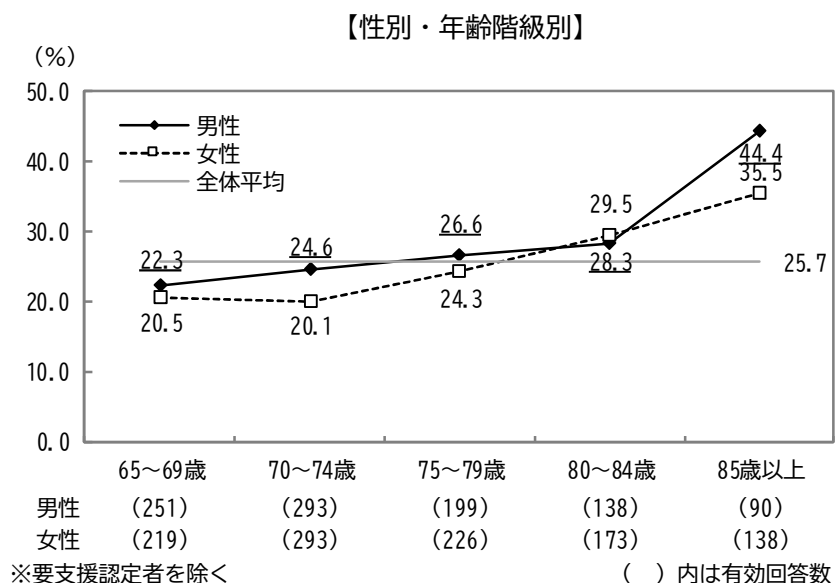
【判定設問】

設問	該当する選択肢
半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。	1. はい
お茶や汁物等でむせることがありますか。	1. はい
口の渇きが気になりますか。	1. はい

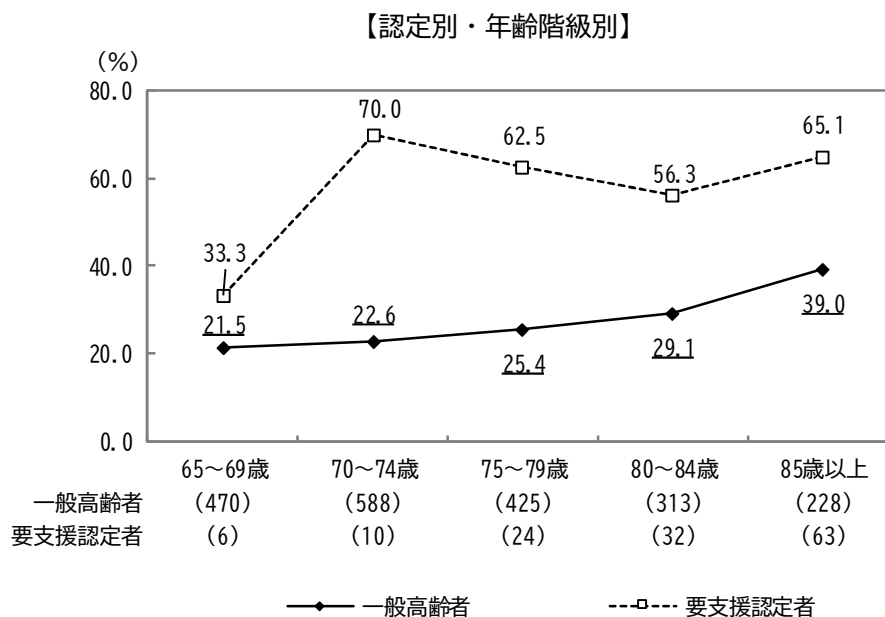
【リスク該当状況】

国の手引きに基づく口腔の評価結果をみると、全体平均で25.7%が口腔機能低下のリスク該当者となっています。

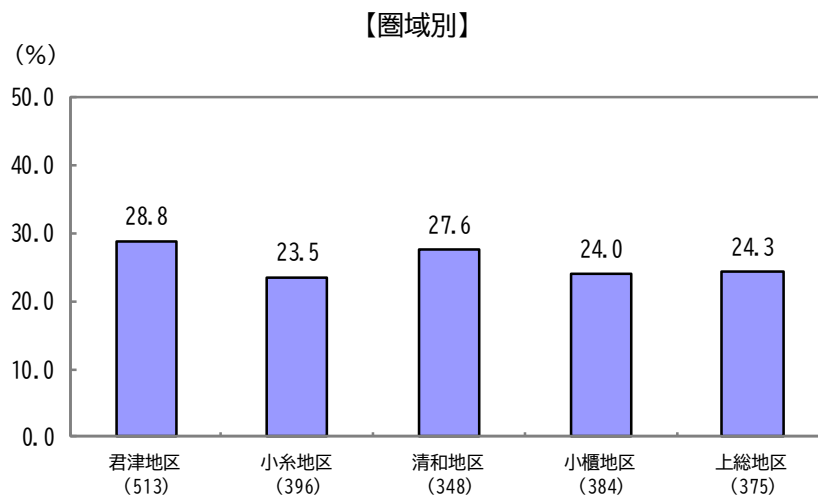
性別・年齢階級別にみると、男性では、85歳以上で44.4%と80～84歳に比べ16.1ポイント上昇しており、女性では、85歳以上で35.5%と80～84歳に比べ6.0ポイント上昇しています。



認定別・年齢階級別にみると、一般高齢者では、年齢階級が上がるにつれて割合が高くなっています。



圏域別にみると、君津地区、清和地区で該当者割合が全体平均の 25.6%を超えています。
 また、最も高い圏域は君津地区で 28.8%、最も低い圏域は小糸地区で 23.5%となっており、
 5.3 ポイントの差となっています。



※要支援認定者を除く

⑥認知

国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、以下の項目に該当する人を認知のリスク該当者と判定しました。

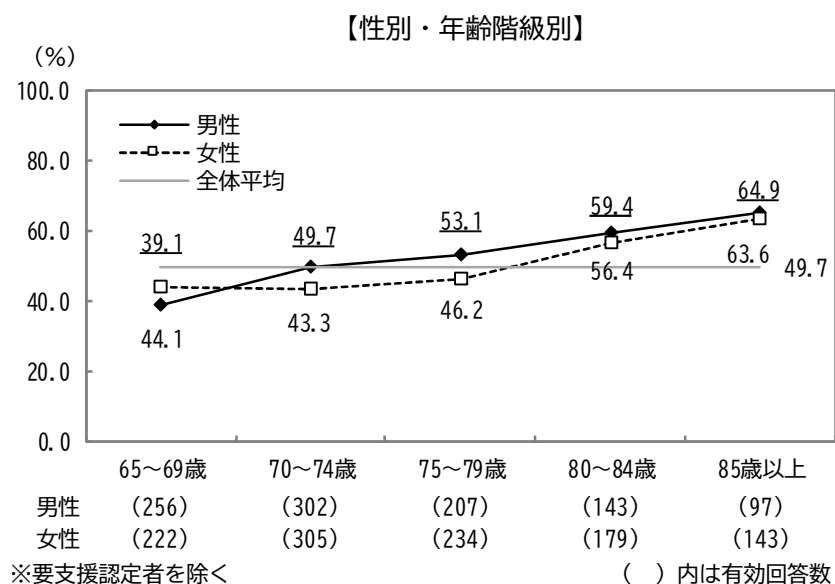
【判定設問】

設問	該当する選択肢
物忘れが多いと感じますか。	1. はい

【リスク該当状況】

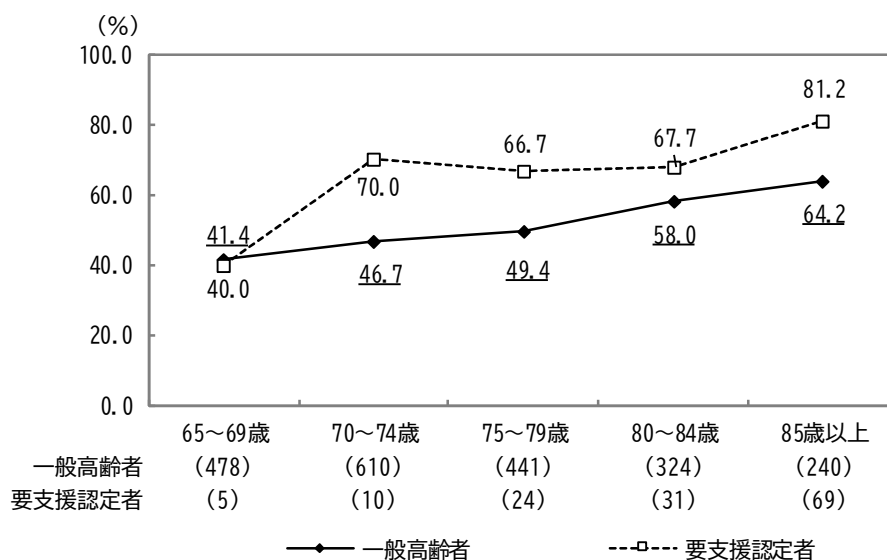
国の手引きに基づく認知の評価結果をみると、全体平均で 49.7%が該当者となっています。

性別・年齢階級別にみると、男性、女性ともに年齢階級が上がるにつれて割合が高くなっています。また、85 歳以上では、女性に比べ、男性で割合が高くなっています。



認定別・年齢階級別にみると、一般高齢者では年齢階級が上がるにつれて、割合が高くなっています。また、要支援認定者では、85歳以上で81.2%と最も高くなっています。

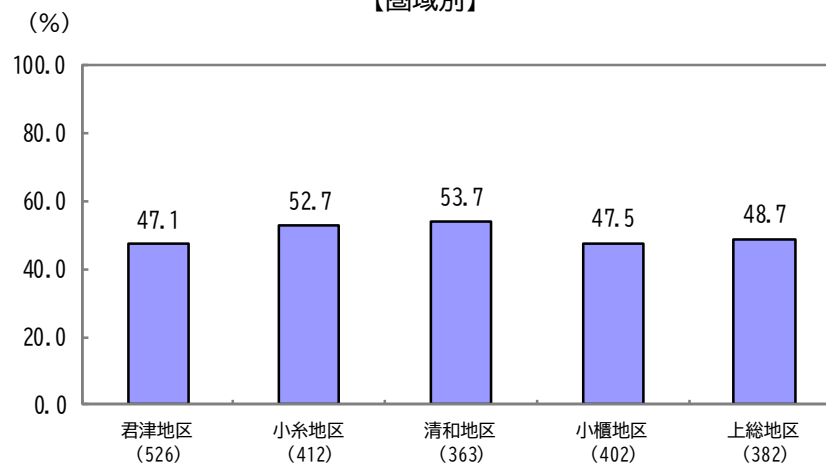
【認定別・年齢階級別】



圏域別にみると、小糸地区、清和地区で該当者割合が全体平均の49.9%を超えています。

また、最も高い圏域は清和地区で53.7%、最も低い圏域は君津地区で47.1%となっており、6.6ポイントの差となっています。

【圏域別】



※要支援認定者を除く

⑦うつ

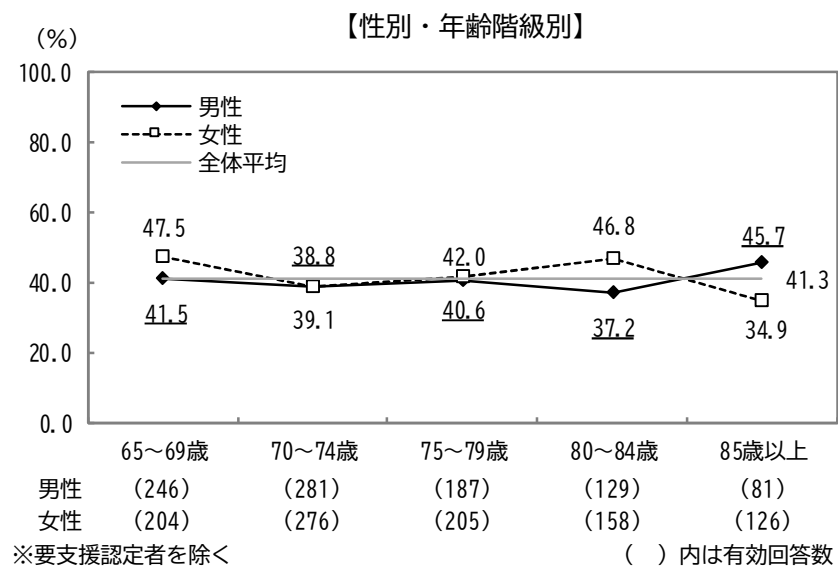
国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、2項目のうち1項目以上に該当する人をうつのリスク該当者と判定しました。

【判定設問】

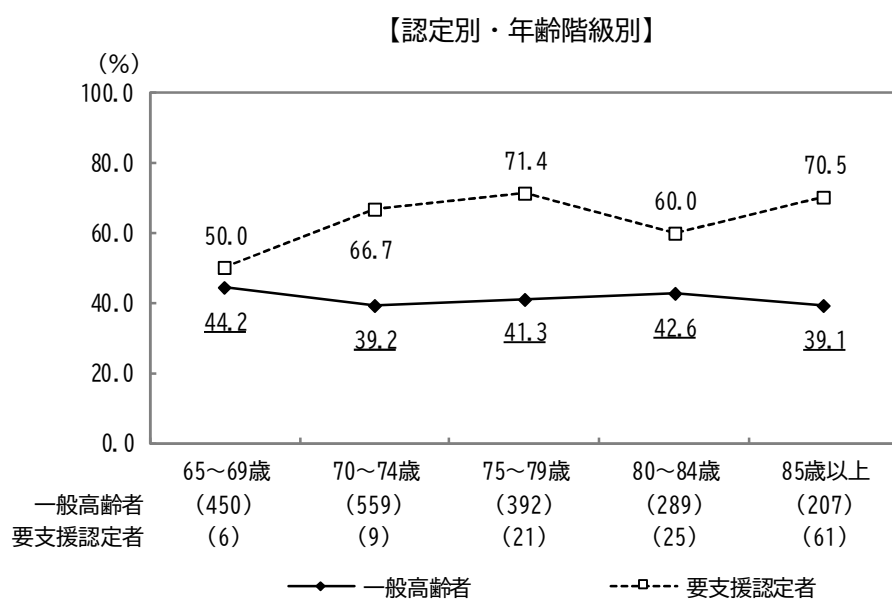
設問	該当する選択肢
この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。	1. はい
この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。	1. はい

【リスク該当状況】

国の手引きに基づきうつの評価結果をみると、全体平均で41.3%が該当者となっています。性別・年齢階級別にみると、男性、女性ともに、年齢階級での大きな変化はありません。

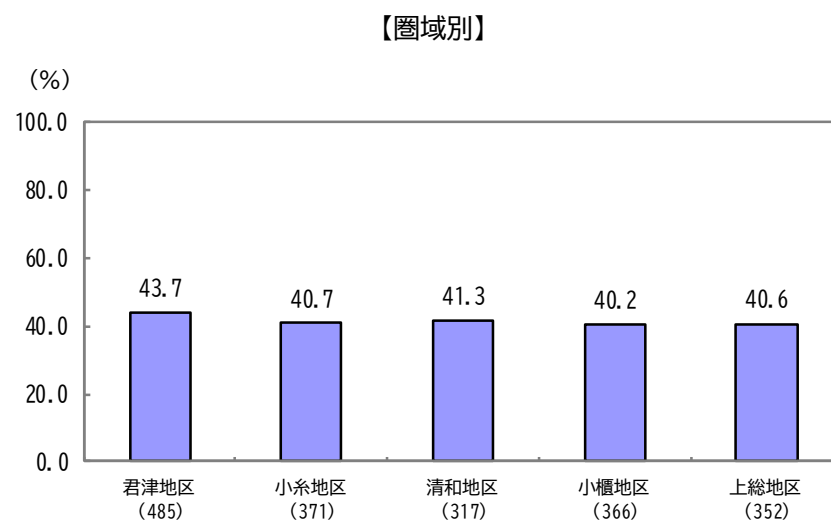


認定別・年齢階級別にみると、一般高齢者に比べ、要支援認定者で割合が高くなっています。



圏域別にみると、君津地区で該当者割合が全体平均の 41.3%を超えています。

また、最も高い圏域は君津地区で 43.7%、最も低い圏域は小櫃地区で 40.2%となっており、9.7 ポイントの差となっています。



※要支援認定者を除く

(2) 日常生活

①手段的自立度（IADL）

高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる老研式活動能力指標には、高齢者の手段的自立度（IADL）に関する設問が5問あり、「手段的自立度（IADL）」として尺度化されています。

評価は、各設問に「できるし、している」または「できるけどしていない」と回答した場合を1点として、5点満点で評価し、5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」と評価しています。

また、4点以下を手段的自立度の低下者とし、低下者の割合を示しています。

【判定設問】

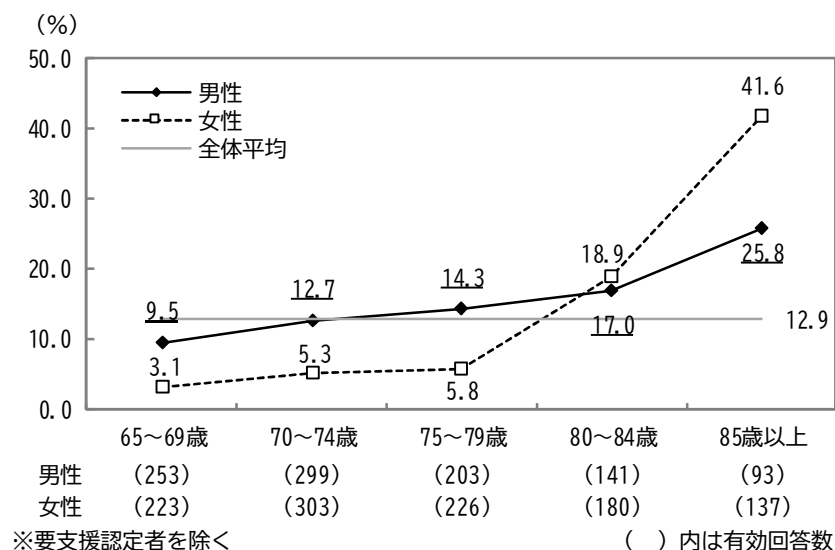
設問	該当する選択肢
バスや電車を使って1人で外出していますか。	1. できるし、している：1点 2. できるけどしていない：1点
自分で食品・日用品の買物をしていますか。	1. できるし、している：1点 2. できるけどしていない：1点
自分で食事の用意をしていますか。	1. できるし、している：1点 2. できるけどしていない：1点
自分で請求書の支払いをしていますか。	1. できるし、している：1点 2. できるけどしていない：1点
自分で預貯金の出し入れをしていますか。	1. できるし、している：1点 2. できるけどしていない：1点

【該当状況】

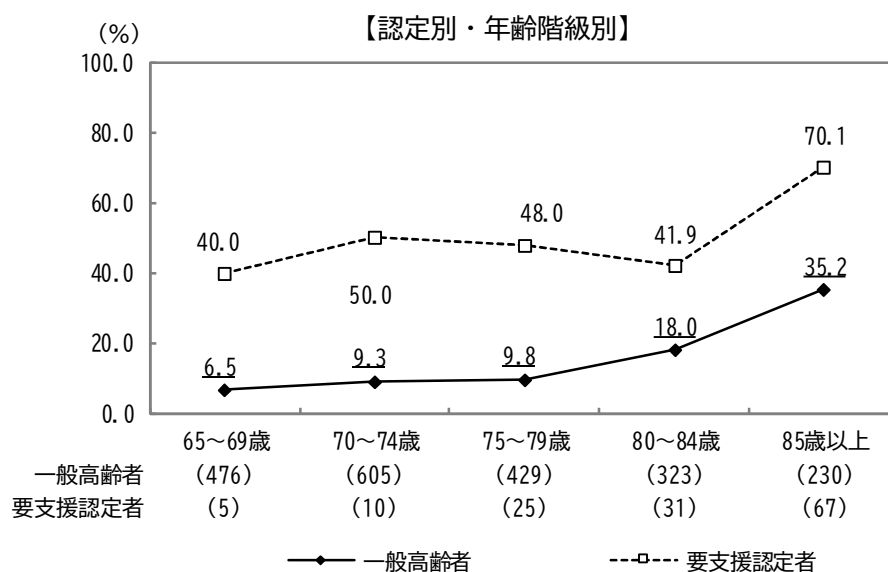
全体平均では12.9%が手段的自立度の低下者となっています。

性別・年齢階級別でみると、女性では、85歳以上になると急激に上昇しています。男性では、85歳以上で25.8%と80～84歳に比べ8.8ポイント、女性では、85歳以上で41.6%と80～84歳に比べ22.7ポイント増加しています。

【性別・年齢階級別】

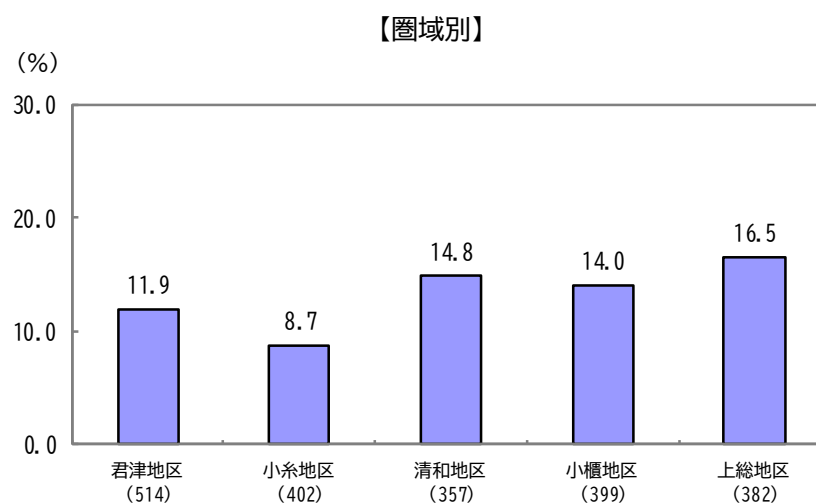


認定別・年齢階級別でみると、一般高齢者に比べ、要支援認定者で割合が高くなっています。
また、一般高齢者では年齢階級が上がるにつれて、割合が高くなっています。



圏域別にみると、清和地区、小櫃地区、で該当者割合が全体平均の 13.2%を超えています。

また、最も高い圏域は上総地区で 16.5%、最も低い圏域は小糸地区で 8.7%となっており、7.8ポイントの差となっています。



※要支援認定者を除く

(3) 社会参加

① 知的能動性

老研式活動能力指標には、高齢者の知的活動に関する設問が4問あり、「知的能動性」として尺度化されています。

評価は、各設問に「はい」と回答した場合を1点として、4点満点で評価し、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」と評価しています。

また、3点以下を知的能動性の低下者とし、低下者の割合を示しています。

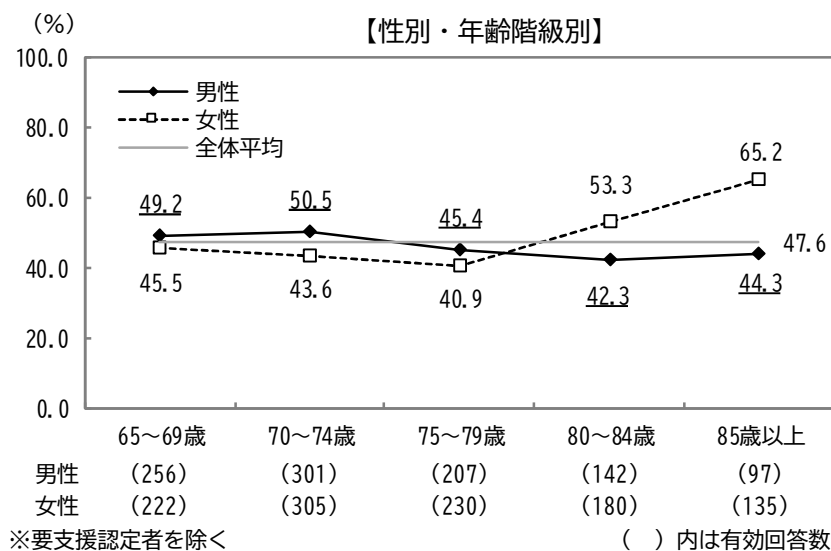
【判定設問】

設問	該当する選択肢
年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか。	1. はい：1点
新聞を読んでいますか。	1. はい：1点
本や雑誌を読んでいますか。	1. はい：1点
健康についての記事や番組に関心がありますか。	1. はい：1点

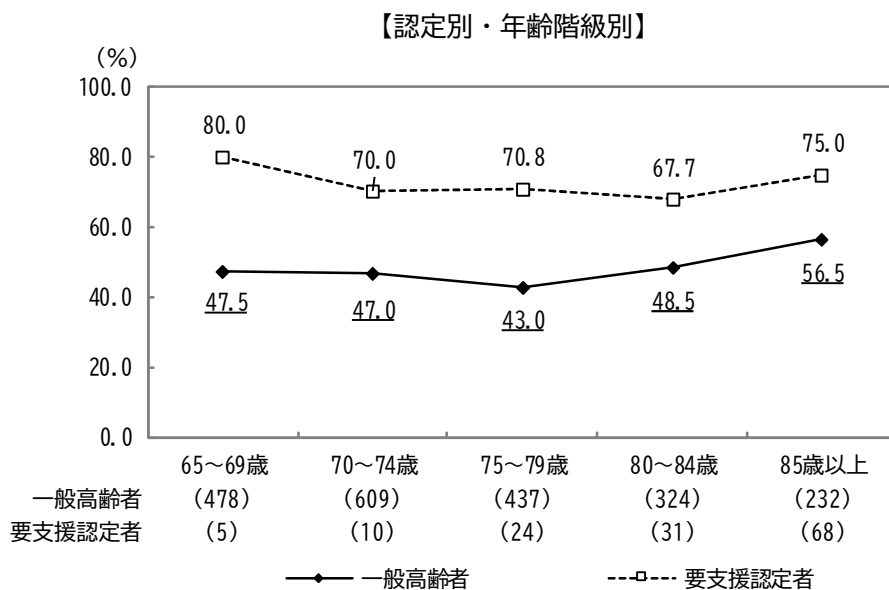
【該当状況】

知的能動性の低下者は、全体平均では47.6%となっています。

性別・年齢階級別でみると、女性では、85歳以上で男性を上回っています。また、85歳以上で65.2%と、80～84歳に比べ、11.9ポイント増加しています。

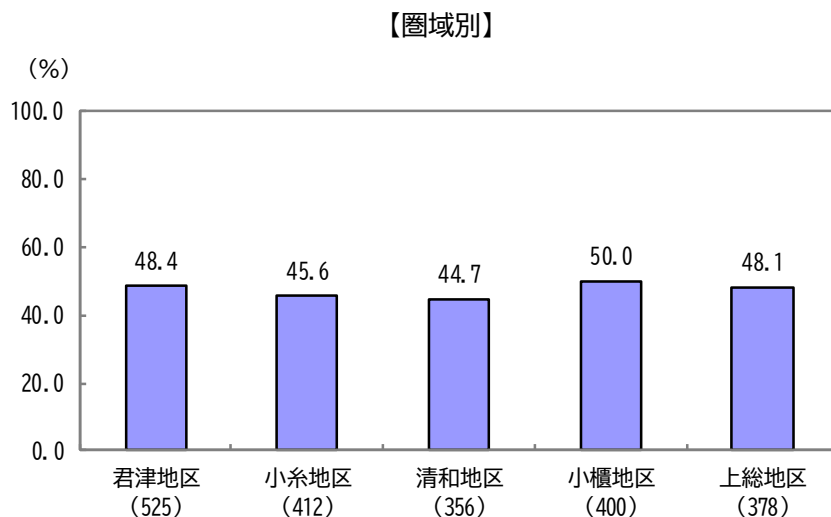


認定・該当状況別・年齢階級別でみると、一般高齢者に比べ、要支援認定者で割合が高くなっています。一般高齢者では、85歳以上が56.5%と最も高くなっています。



圏域別にみると、君津地区、小櫃地区、上総地区で該当者割合が全体平均の47.4%を超えています。

また、最も高い圏域は小櫃地区で50.0%、最も低い圏域は清和地区で44.7%となっており、5.3ポイントの差となっています。



※要支援認定者を除く

②社会的役割

老研式活動能力指標には、高齢者の社会活動に関する設問が4問あり、「社会的役割」として尺度化されています。

評価は、知的能動性と同様に4点満点で評価し、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」と評価しています。

また、3点以下を社会的役割の低下者とし、低下者の割合を示しています。

【判定設問】

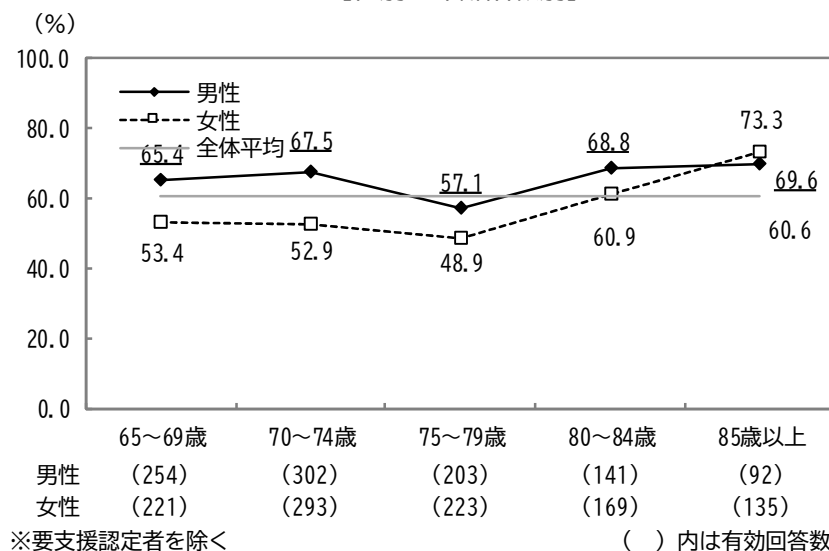
設問	該当する選択肢
友人の家を訪ねていますか。	1. はい：1点
家族や友人の相談にのっていますか。	1. はい：1点
病人を見舞うことができますか。	1. はい：1点
若い人に自分から話しかけることがありますか。	1. はい：1点

【該当状況】

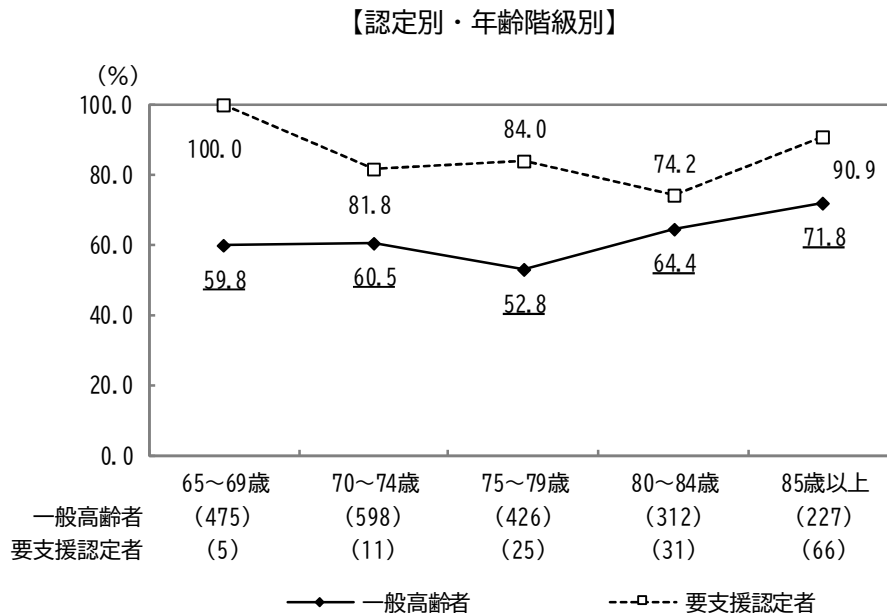
社会的役割の低下者は、全体平均では 60.6%となっています。

性別・年齢階級別でみると、男性では、70～74 歳で 67.5%と最も高くなっています。女性では、75～79 歳以降急激に上昇し、85 歳以上で 73.3%と 75～79 歳に比べ 24.4 ポイント上昇しています。

【性別・年齢階級別】

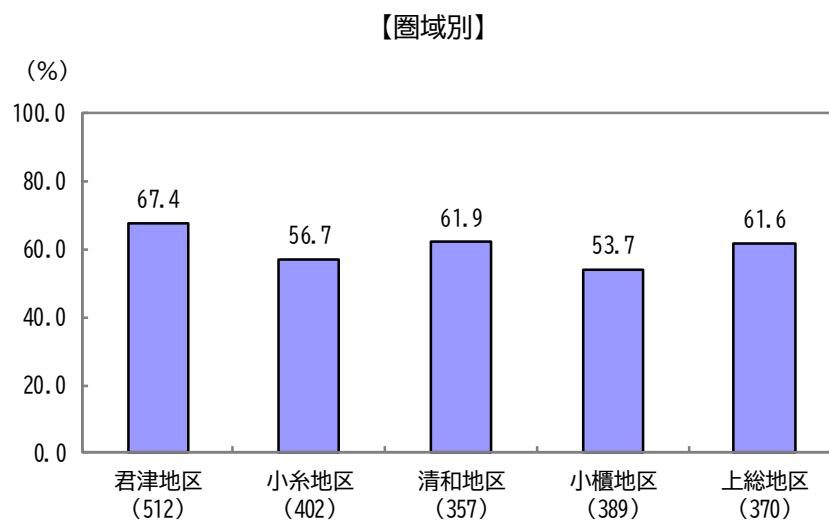


認定別・年齢階級別にみると、一般高齢者に比べ、要支援認定者で割合が高くなっています。75～79 歳では、一般高齢者が 52.8%、要支援認定者が 84.0%と、31.2 ポイントの差となっています。また、85 歳以上では、一般高齢者が 71.8%、要支援認定者が 90.9%と、19.1 ポイントの差となっています。



圏域別にみると、君津地区、清和地区、上総地区で該当者割合が全体平均の 60.3%を超えています。

また、最も高い圏域は君津地区で 67.4%、最も低い圏域は小櫃地区で 53.7%となっており、13.7 ポイントの差となっています。



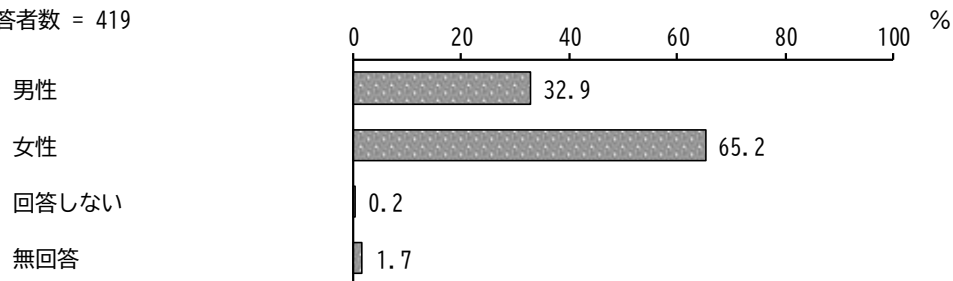
3 在宅介護実態調査

(1) 調査対象者様ご本人について

問1 ご本人の性別について、ご回答ください（回答は1つ）

「女性」の割合が 65.2%と最も高く、次いで「男性」の割合が 32.9%となっています。

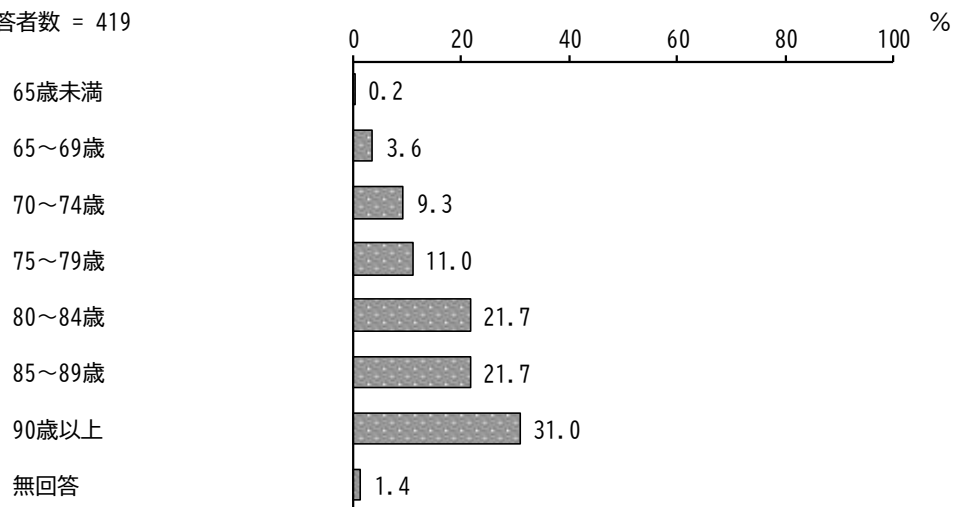
回答者数 = 419



問2 ご本人の年齢について、ご回答ください（回答は1つ）

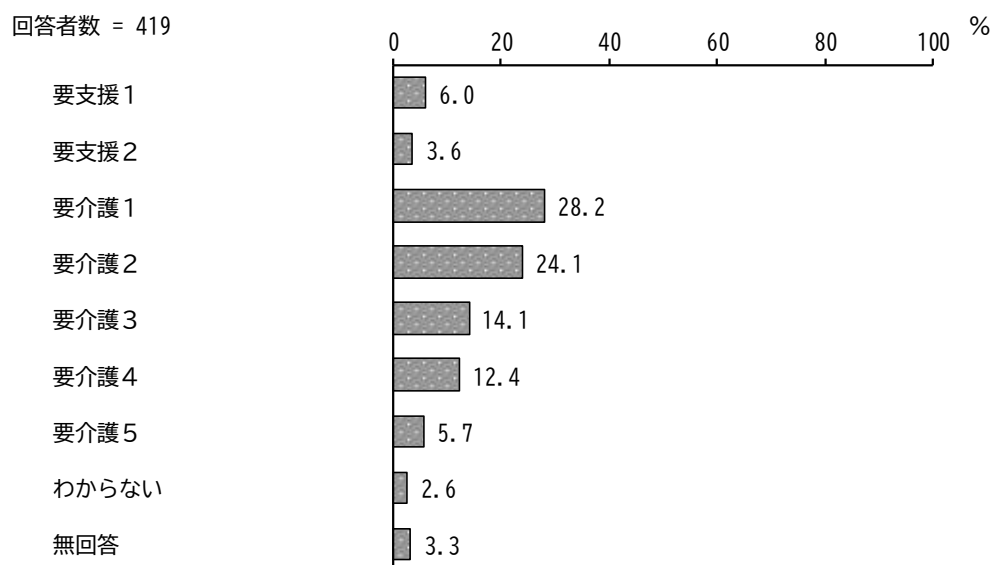
「90歳以上」の割合が 31.0%と最も高く、次いで「80～84歳」、「85～89歳」の割合が 21.7%となっています。

回答者数 = 419



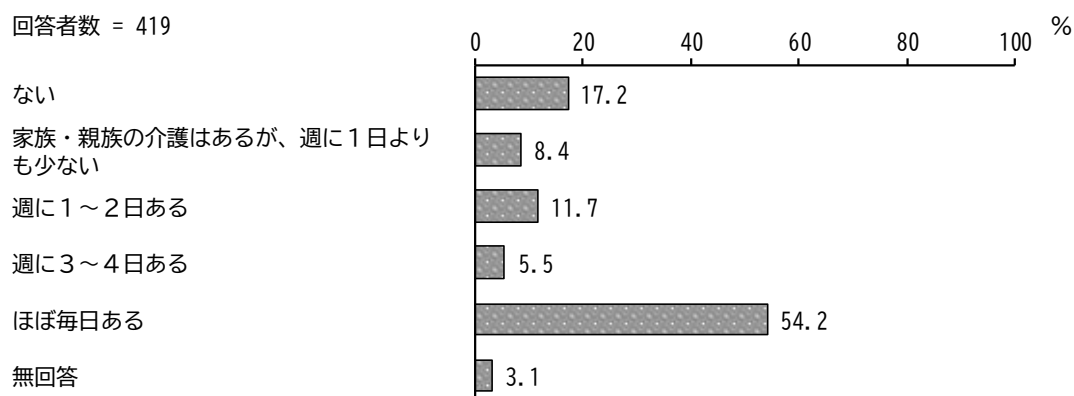
問3 ご本人の要介護度について、ご回答ください（回答は1つ）

「要介護1」の割合が28.2%と最も高く、次いで「要介護2」の割合が24.1%、「要介護3」の割合が14.1%となっています。



問4 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか（同居していない子どもや親族等からの介護を含む）（回答は1つ）

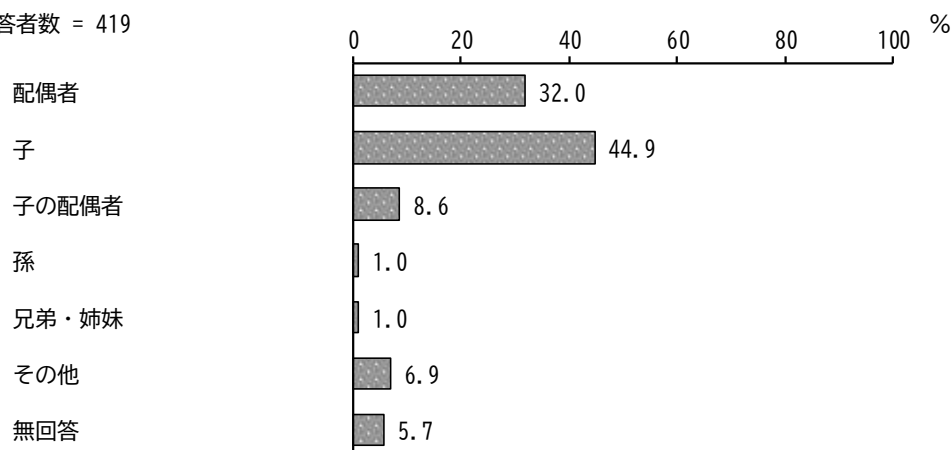
「ほぼ毎日ある」の割合が54.2%と最も高く、次いで「ない」の割合が17.2%、「週に1～2日ある」の割合が11.7%となっています。



問5 主な介護者の方は、どなたですか（回答は1つ）

「子」の割合が44.9%と最も高く、次いで「配偶者」の割合が32.0%となっています。

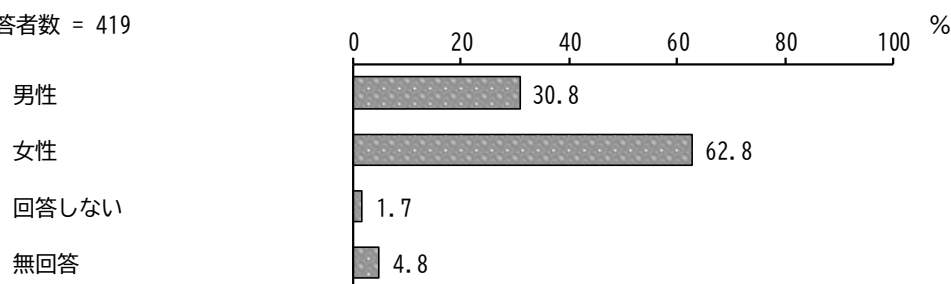
回答者数 = 419



問6 主な介護者の方の性別について、ご回答ください（回答は1つ）

「女性」の割合が62.8%と最も高く、次いで「男性」の割合が30.8%となっています。

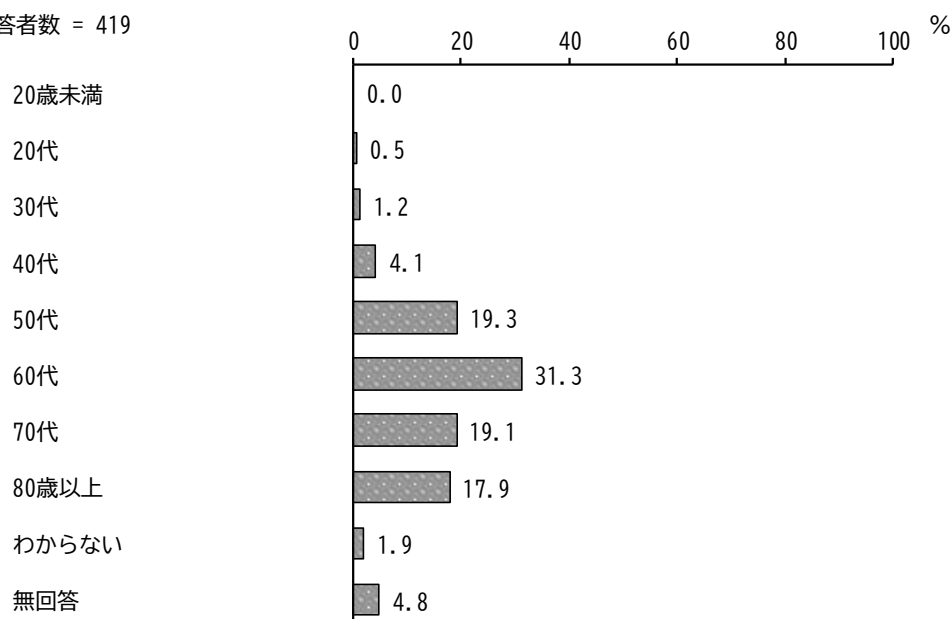
回答者数 = 419



問7 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください（回答は1つ）

「60代」の割合が31.3%と最も高く、次いで「50代」の割合が19.3%、「70代」の割合が19.1%となっています。

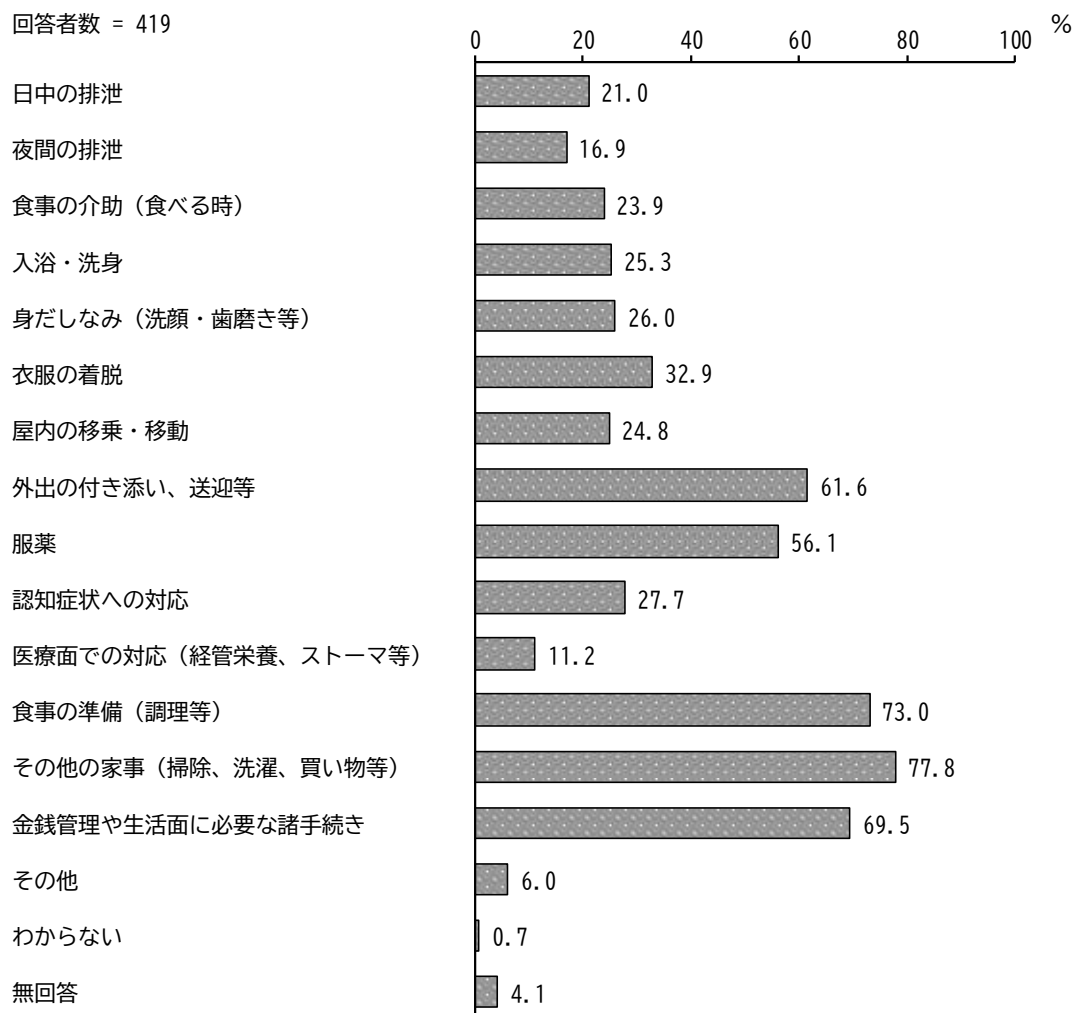
回答者数 = 419



問8 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください（いくつでも）

「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」の割合が 77.8%と最も高く、次いで「食事の準備（調理等）」の割合が 73.0%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」の割合が 69.5%となっています。

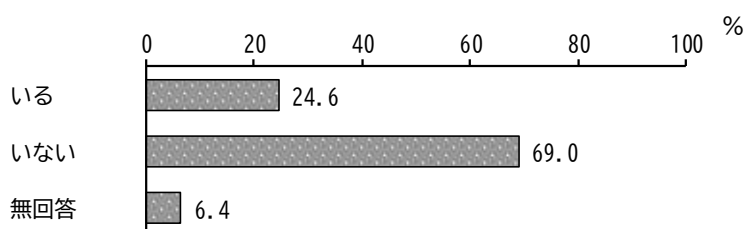
回答者数 = 419



問9 ご本人（調査対象者）以外のご家族で成人していて（学生は除く）働いていない（所得のない）方はいますか（回答は1つ）

「いる」の割合が24.6%、「いない」の割合が69.0%となっています。

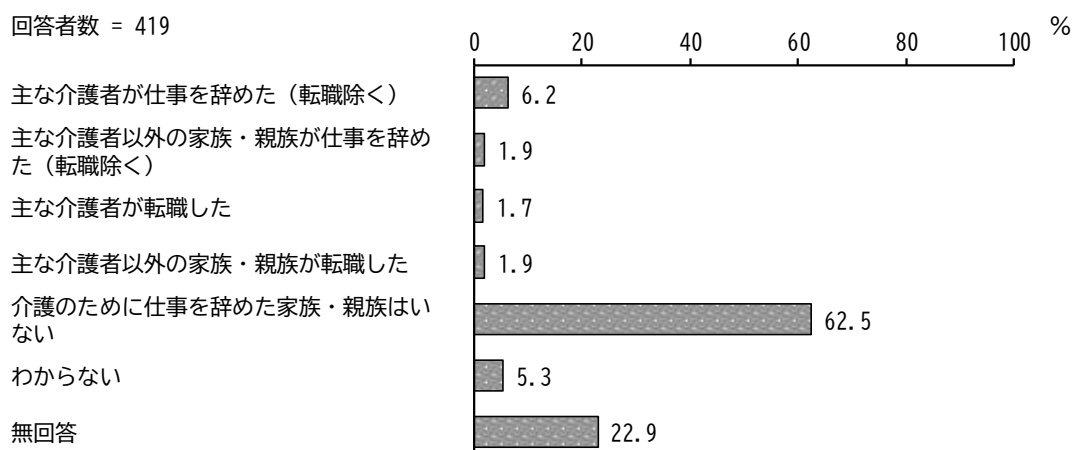
回答者数 = 419



問10 ご家族やご親族の中で、ご本人（調査対象者）の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）（いくつでも）

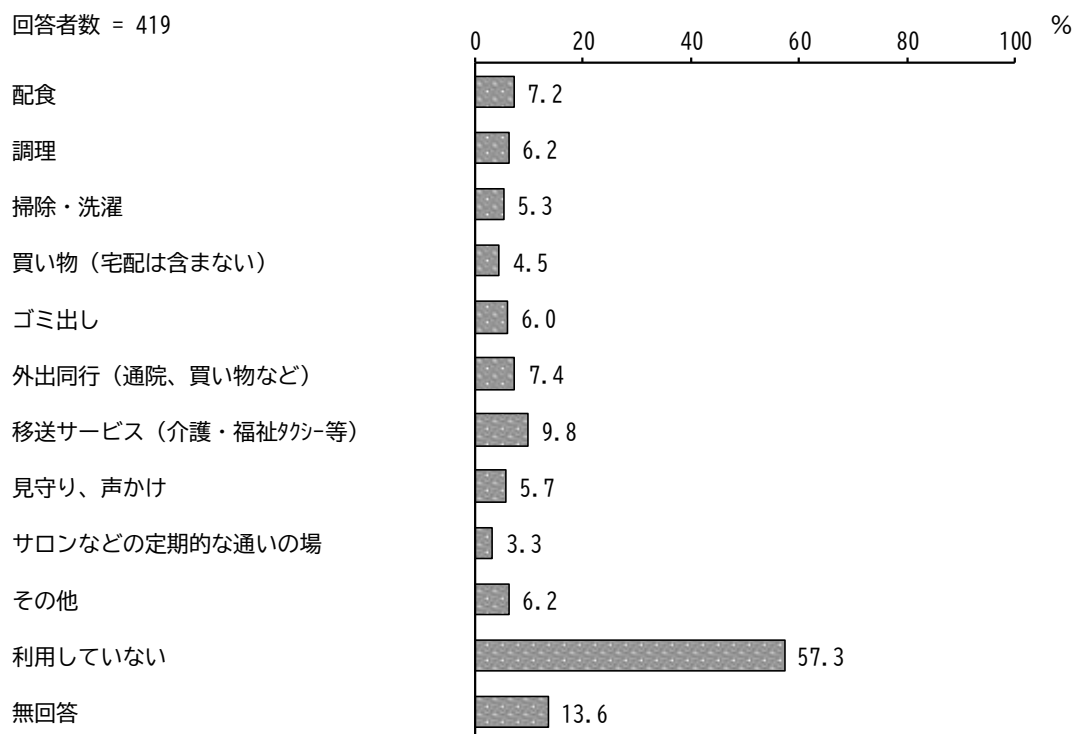
「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」の割合が62.5%と最も高くなっています。

回答者数 = 419



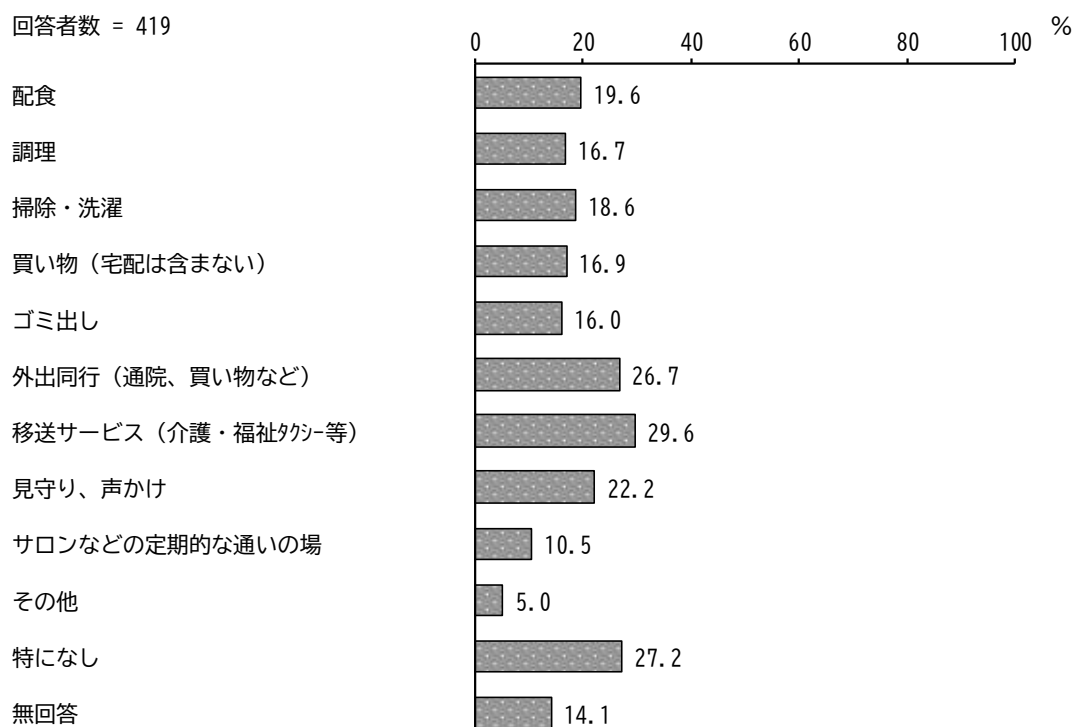
問 11 現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、
ご回答ください（いくつでも）

「利用していない」の割合が 57.3%と最も高くなっています。



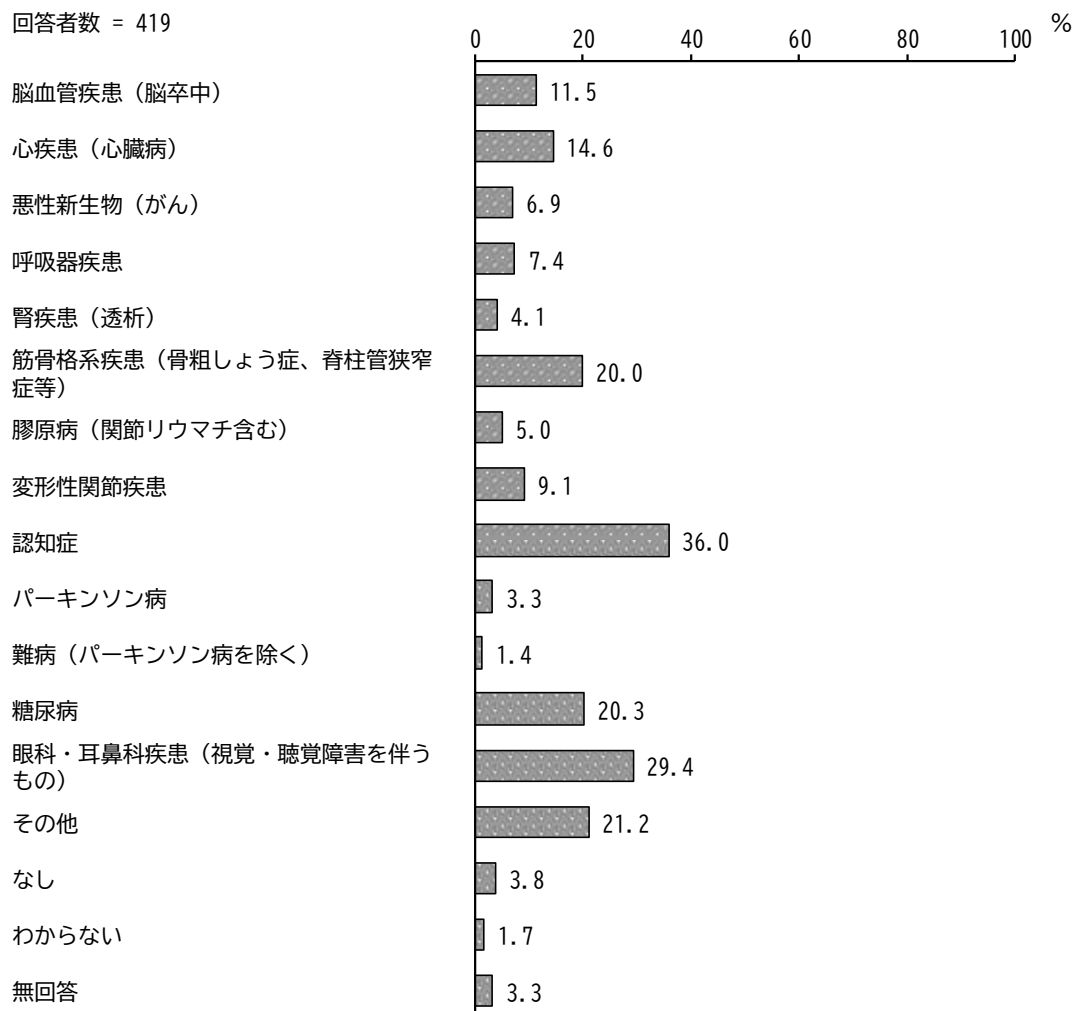
問 12 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、ご回答ください（いくつでも）

「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」の割合が 29.6%と最も高く、次いで「特になし」の割合が 27.2%、「外出同行（通院、買い物など）」の割合が 26.7%となっています。



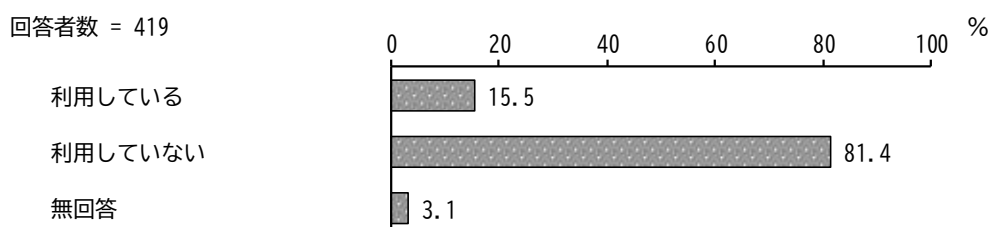
問 13 ご本人（調査対象者）が、現在抱えている傷病について、ご回答ください
（いくつでも）

「認知症」の割合が 36.0%と最も高く、次いで「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」の割合が 29.4%、「糖尿病」の割合が 20.3%となっています。



問 14 ご本人（調査対象者）は、現在、訪問診療を利用していますか（回答は1つ）

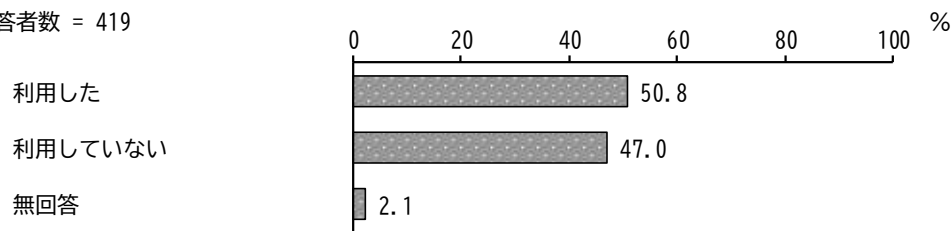
「利用している」の割合が 15.5%、「利用していない」の割合が 81.4%となっています。



問 15 令和5年1月の1か月の間に、（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスを利用しましたか（回答は1つ）

「利用した」の割合が 50.8%、「利用していない」の割合が 47.0%となっています。

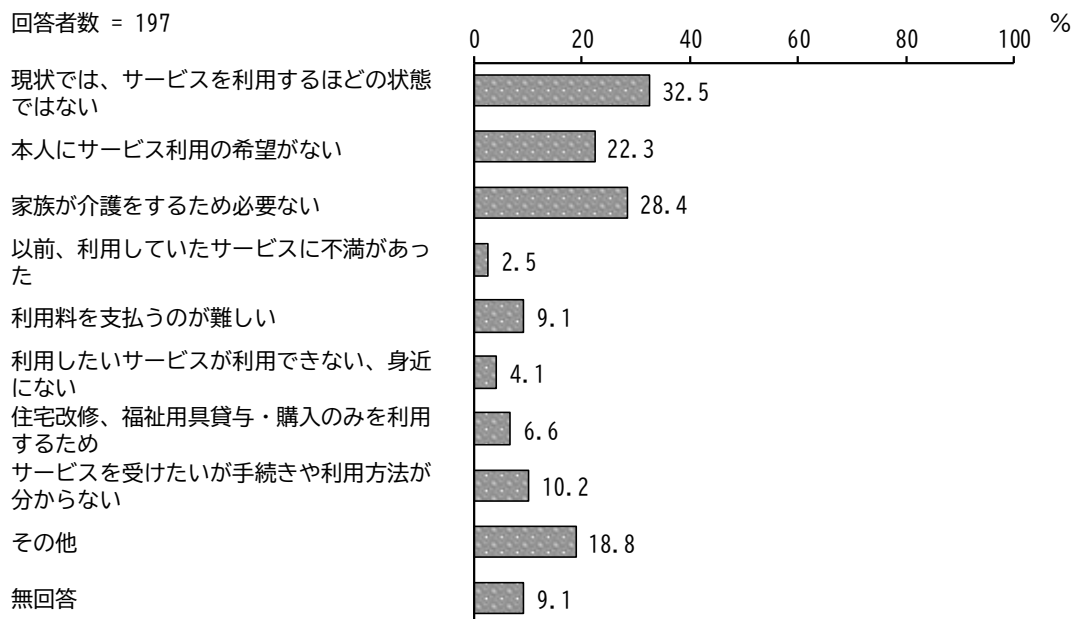
回答者数 = 419



問 16 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか（いくつでも）

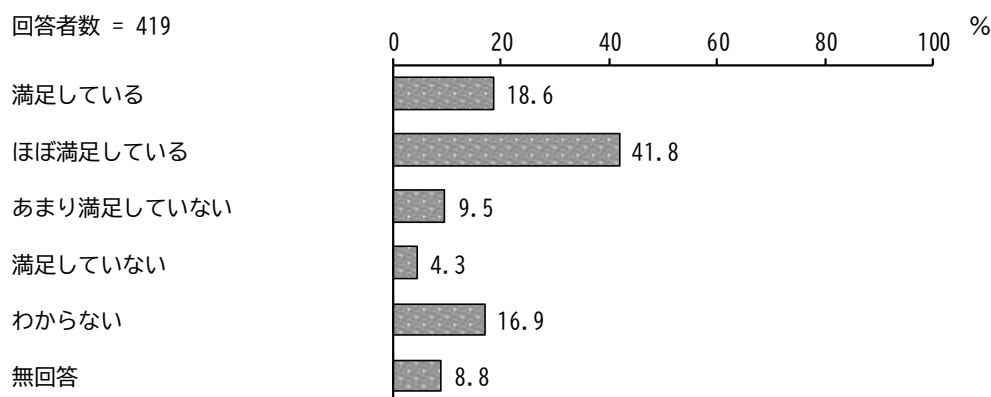
「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」の割合が 32.5%と最も高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」の割合が 28.4%、「本人にサービス利用の希望がない」の割合が 22.3%となっています。

回答者数 = 197



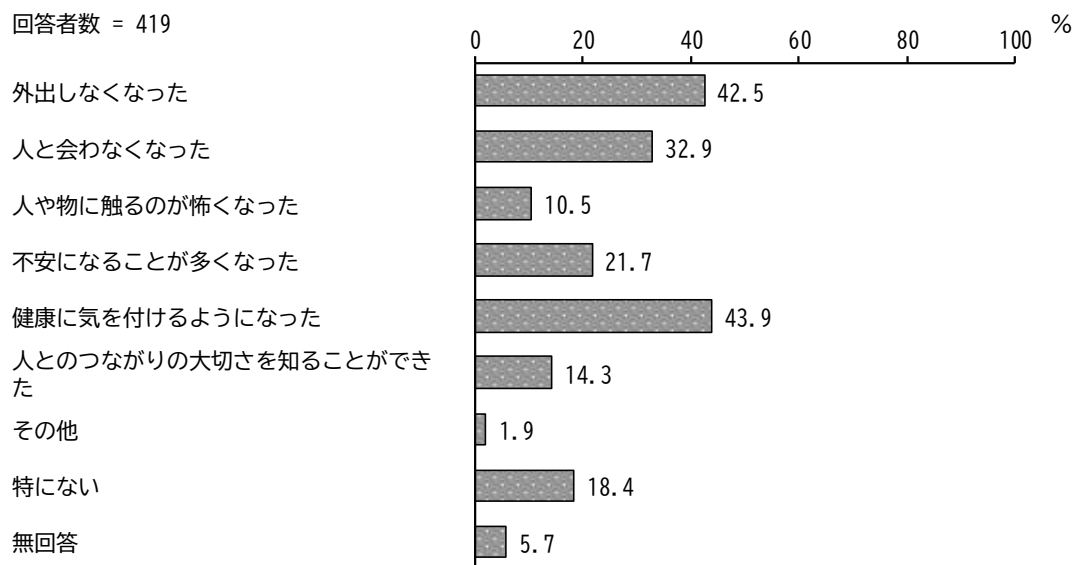
問 17 今回のケアプランについて、あなたはどの程度満足していますか（回答は1つ）

「ほぼ満足している」の割合が41.8%と最も高く、次いで「満足している」の割合が18.6%、「わからない」の割合が16.9%となっています。



問 18 新型コロナウイルス感染症の流行を受けて、あなたの行動や意識に変化はありましたか（いくつでも）

「健康に気を付けるようになった」の割合が43.9%と最も高く、次いで「外出しなくなった」の割合が42.5%、「人と会わなくなった」の割合が32.9%となっています。

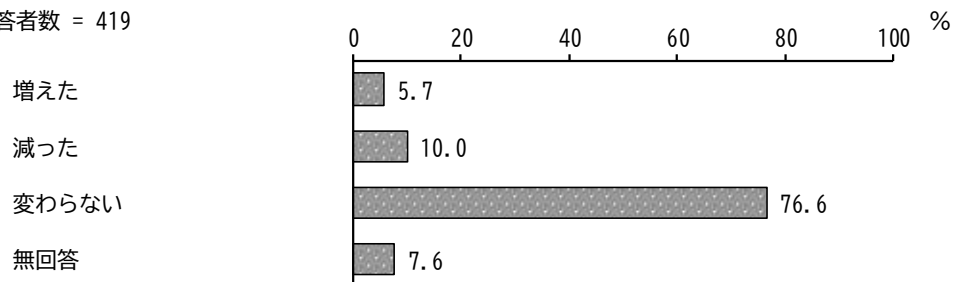


問 19 新型コロナウイルス感染症の影響でサービス利用状況は変化しましたか。また、それに伴う身体の変化はありますか（回答は1つ）

【サービスの利用状況】

「変わらない」の割合が76.6%と最も高く、次いで「減った」の割合が10.0%となっています。

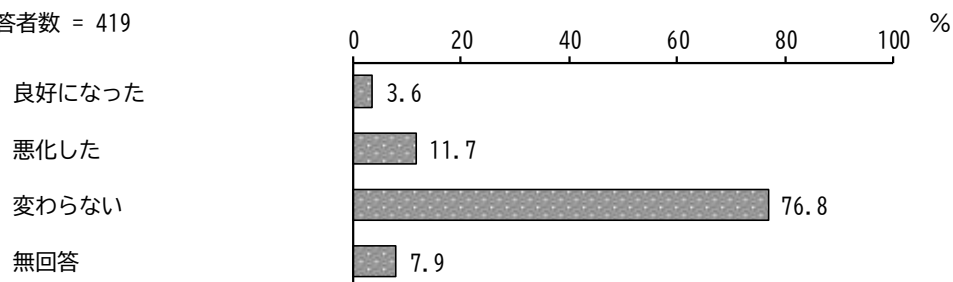
回答者数 = 419



【身体の状態】

「変わらない」の割合が76.8%と最も高く、次いで「悪化した」の割合が11.7%となっています。

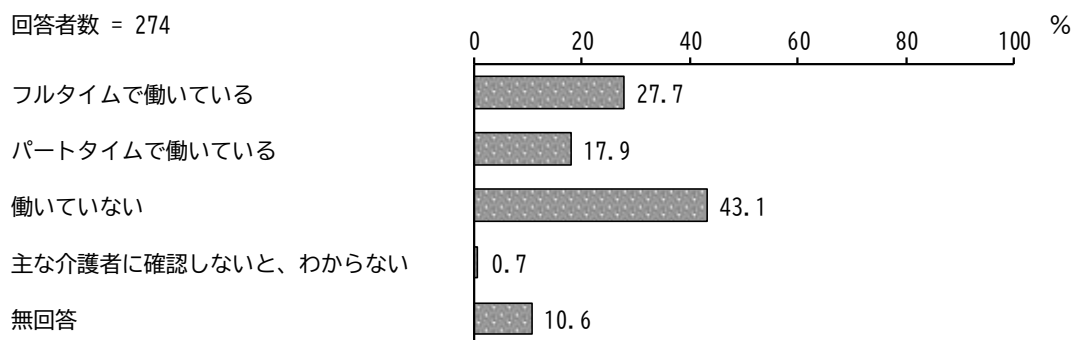
回答者数 = 419



(2) 主な介護者の方について

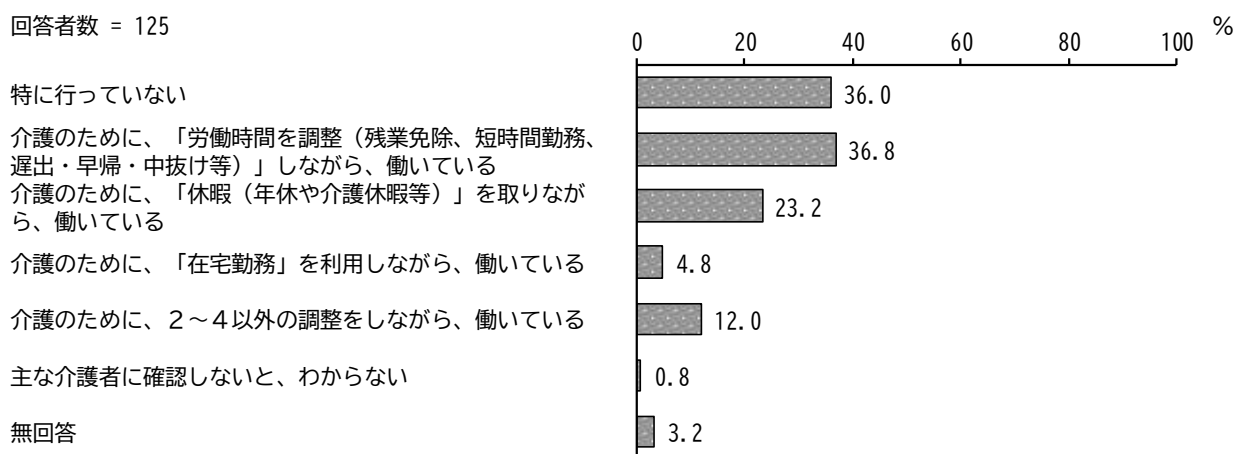
問 20 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください（回答は1つ）

「働いていない」の割合が 43.1%と最も高く、次いで「フルタイムで働いている」の割合が 27.7%、「パートタイムで働いている」の割合が 17.9%となっています。



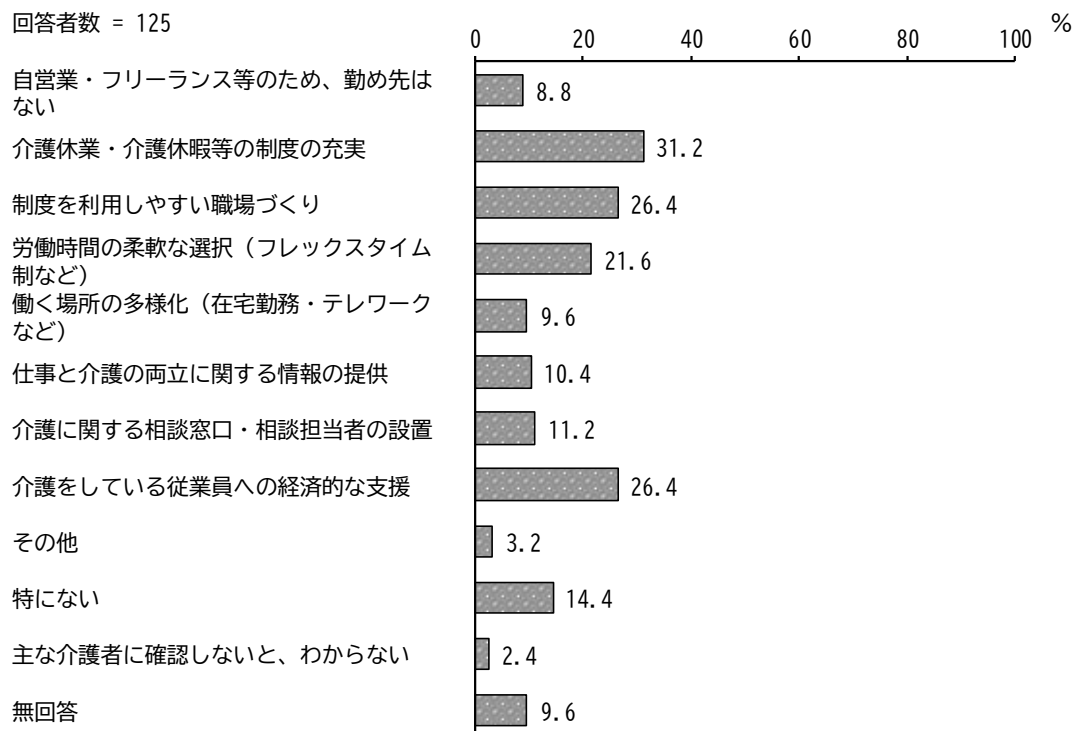
問 21 主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか（いくつでも）

「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」の割合が 36.8%と最も高く、次いで「特に行っていない」の割合が 36.0%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」の割合が 23.2%となっています。



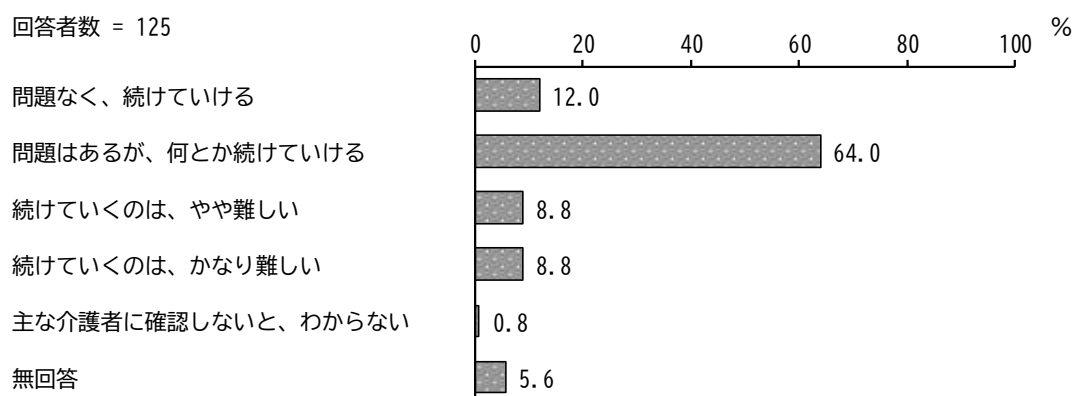
問 22 主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか（回答は3つまで）

「介護休業・介護休暇等の制度の充実」の割合が 31.2%と最も高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」、「介護をしている従業員への経済的な支援」の割合が 26.4%となっています。



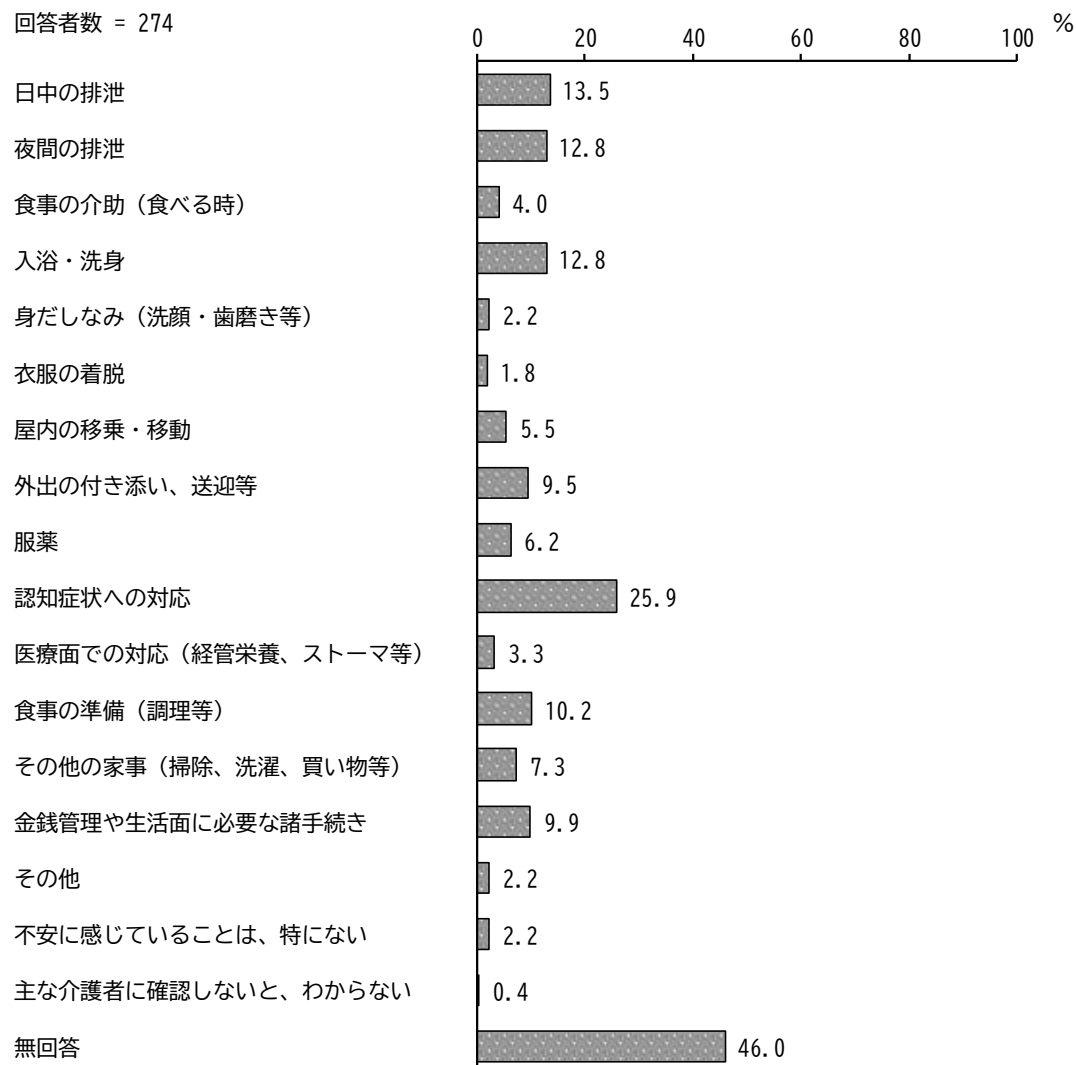
問 23 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか（回答は1つ）

「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が 64.0%と最も高く、次いで「問題なく、続けていける」の割合が 12.0%となっています。



問 24 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください（現状で行っているか否かは問いません）（回答は3つまで）

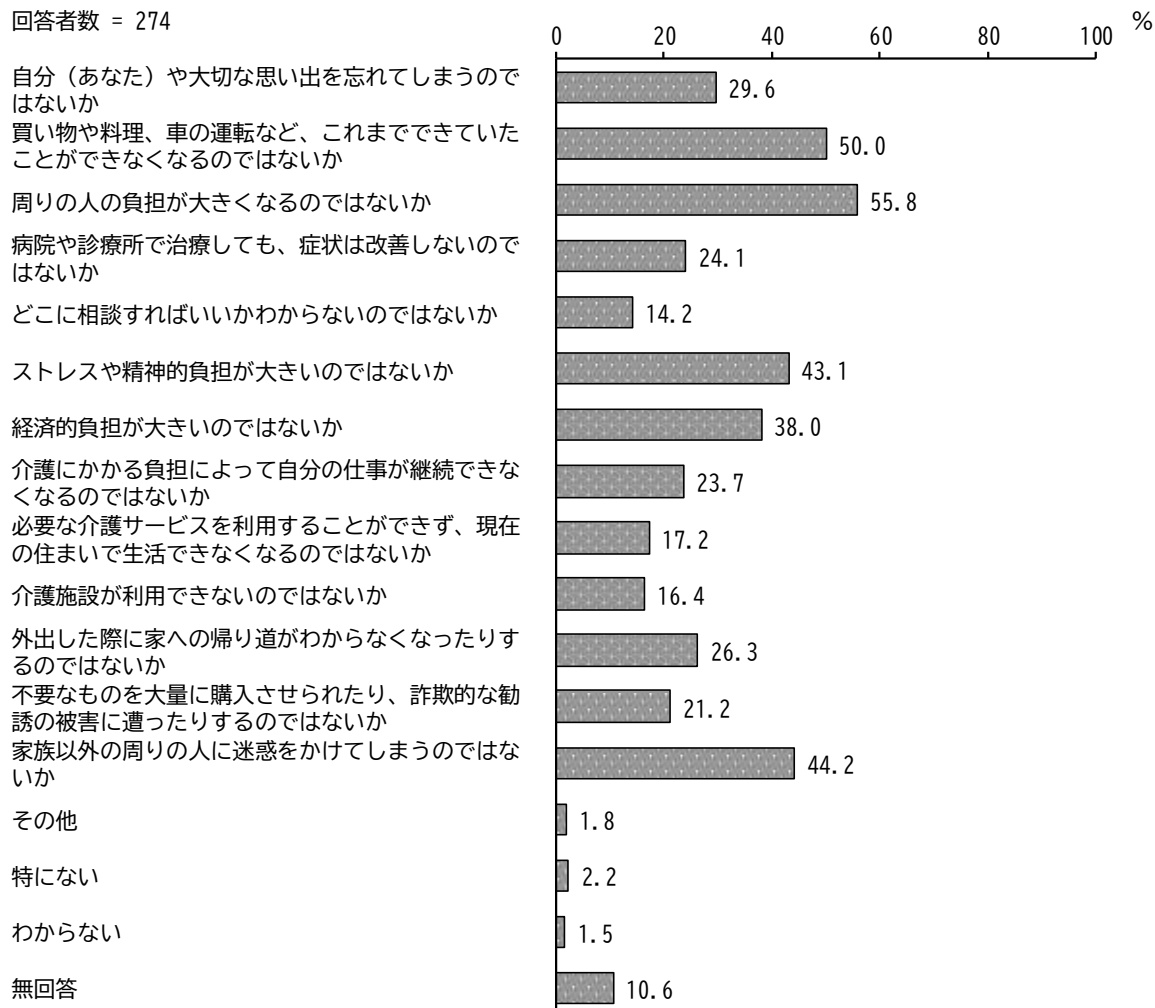
「認知症状への対応」の割合が 25.9%と最も高く、次いで「日中の排泄」の割合が 13.5%、「夜間の排泄」、「入浴・洗身」の割合が 12.8%となっています。



問 25 ご自身やご家族が認知症になったら不安に感じることは何がありますか

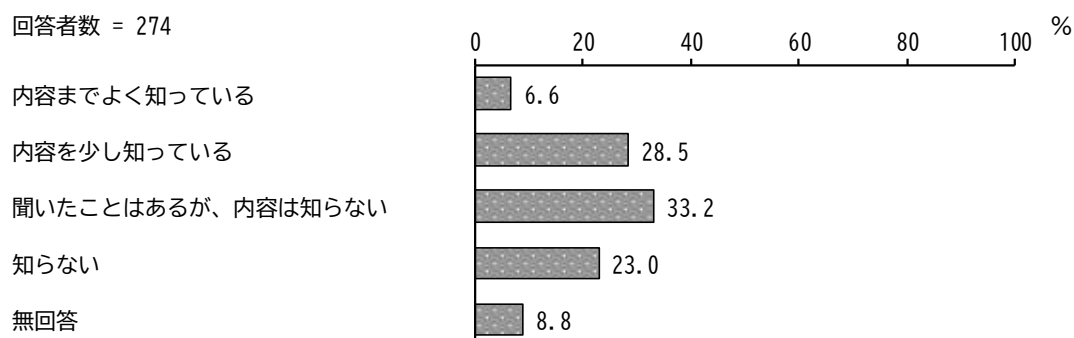
「周りの人の負担が大きくなるのではないか」の割合が 55.8%と最も高く、次いで「買い物や料理、車の運転など、これまでできていたことができなくなるのではないか」の割合が 50.0%、「家族以外の周りの人に迷惑をかけてしまうのではないか」の割合が 44.2%となっています。

回答者数 = 274



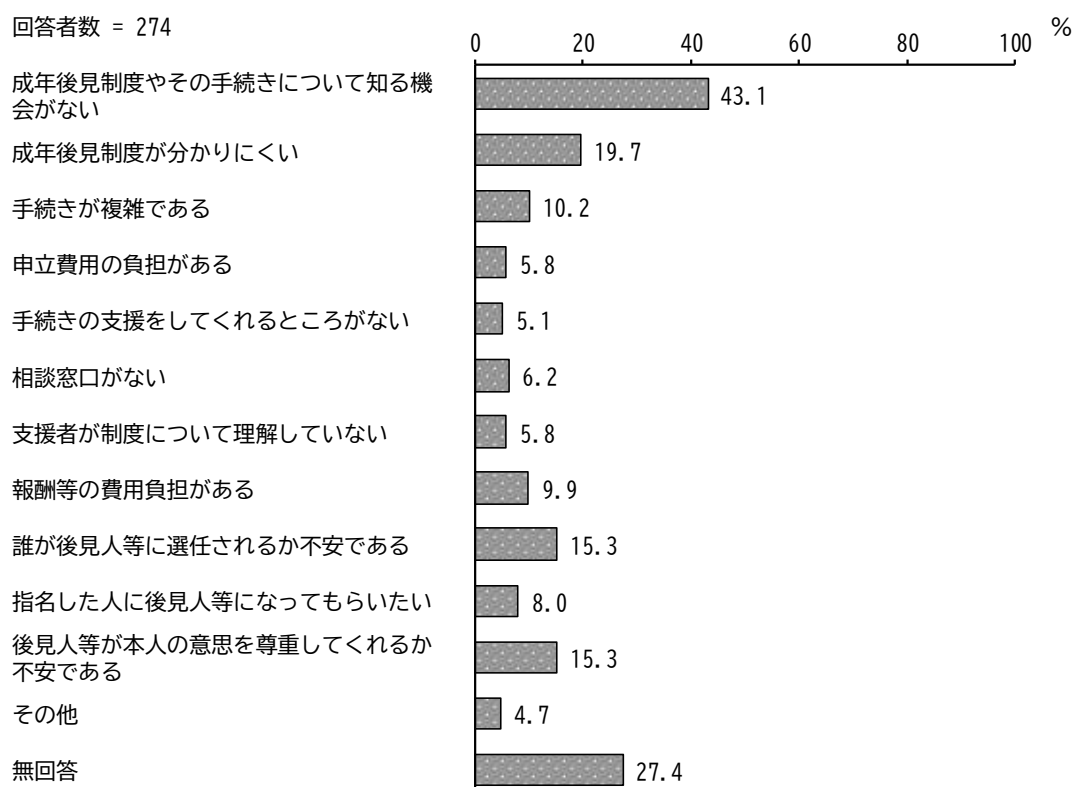
問 26 あなたは、「成年後見制度」をご存知ですか（回答は1つ）

「聞いたことはあるが、内容は知らない」の割合が 33.2%と最も高く、次いで「内容を少し知っている」の割合が 28.5%、「知らない」の割合が 23.0%となっています。



問 27 成年後見制度の利用促進に向けての課題は何だと思いますか

「成年後見制度やその手続きについて知る機会がない」の割合が 43.1%と最も高く、次いで「成年後見制度が分かりにくい」の割合が 19.7%、「誰が後見人等を選任されるか不安である」、「後見人等が本人の意思を尊重してくれるか不安である」の割合が 15.3%となっています。



4 在宅生活改善調査

(1) 自宅等から居所を変更した利用者の行先別の人数

過去1年間に自宅等から居所を変更した利用者は169人で、行先別の人数をみると、特別養護老人ホームが43人(25.4%)、サービス付き高齢者向け住宅が27人(16.0%)、介護老人保健施設が21人(12.4%)と多く、兄弟・子ども・親戚等の家が18人(10.7%)と続いています。

過去1年間に自宅等から居場所を変更した利用者の行先別の人数

行先	市区町村内	市区町村外	合計
兄弟・子ども・親戚等の家	11人 6.5%	7人 4.1%	18人 10.7%
住宅型有料老人ホーム	1人 0.6%	2人 1.2%	3人 1.8%
軽費老人ホーム	0人 0.0%	2人 1.2%	2人 1.2%
サービス付き高齢者向け住宅	12人 7.1%	15人 8.9%	27人 16.0%
グループホーム	11人 6.5%	0人 0.0%	11人 6.5%
特定施設	7人 4.1%	3人 1.8%	10人 5.9%
地域密着型特定施設	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
介護老人保健施設	14人 8.3%	7人 4.1%	21人 12.4%
療養型・介護医療院	8人 4.7%	1人 0.6%	9人 5.3%
特別養護老人ホーム	32人 18.9%	11人 6.5%	43人 25.4%
地域密着型特別養護老人ホーム	3人 1.8%	1人 0.6%	4人 2.4%
その他	6人 3.6%	15人 8.9%	21人 12.4%
行先を把握していない			0人 0.0%
合計	105人 62.1%	64人 37.9%	169人 100.0%

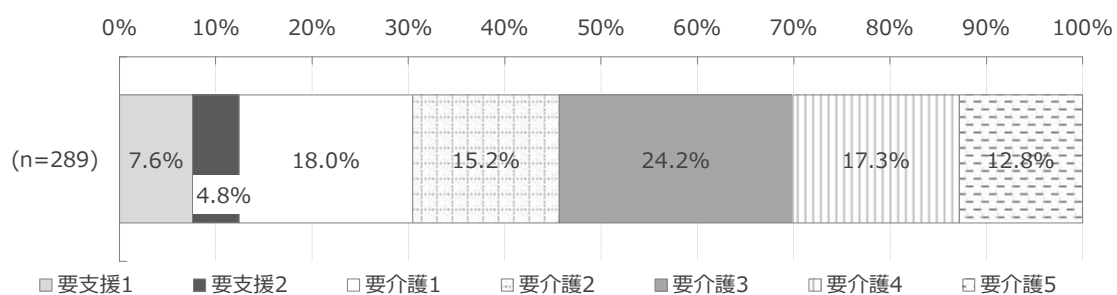
(注1) 「自宅等」には、サービス付き高齢者向け住宅・住宅型有料老人ホーム・軽費老人ホームを含めていません。

(注2) 表の上段の数値は、「回答実数」であり、回収率の逆数に乗じて簡易的に算出した「粗推計」されたものではありません。

(2) 自宅等から居所を変更した利用者の要介護度の内訳

過去1年間に自宅等から居所を変更した利用者のうち、死亡を除いた要介護度の内訳をみると、要介護3が24.2%と最も多く、要介護1が18.0%、要介護4が17.3%、要介護2が15.2%とそれに続きます。

過去1年間に自宅等から居場所を変更した利用者の要介護度の内訳



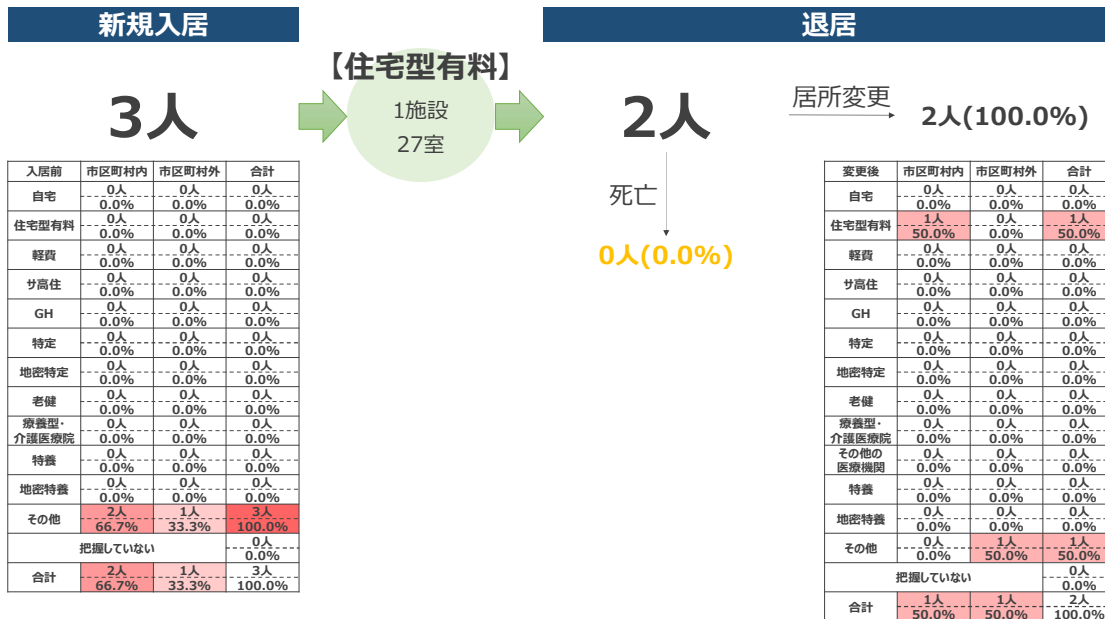
(注)「自宅等」には、サービス付き高齢者向け住宅・住宅型有料老人ホーム・軽費老人ホームを含めていません。また、死亡した方は集計から除いています。

5 居所変更実態調査

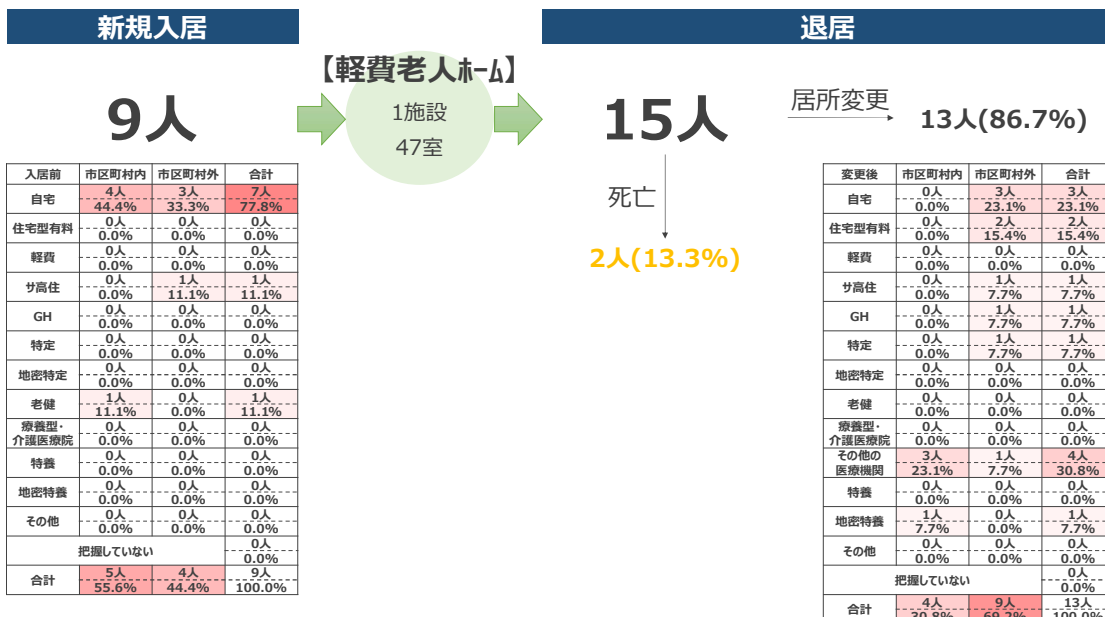
(1) 地域内の居所移動の実態

過去1年間の施設等の新規の入居・入所及び退去・退所の流れをサービス種類別にみると、特別養護老人ホームで退去者が139人、死亡も95人と最も多くなっています。

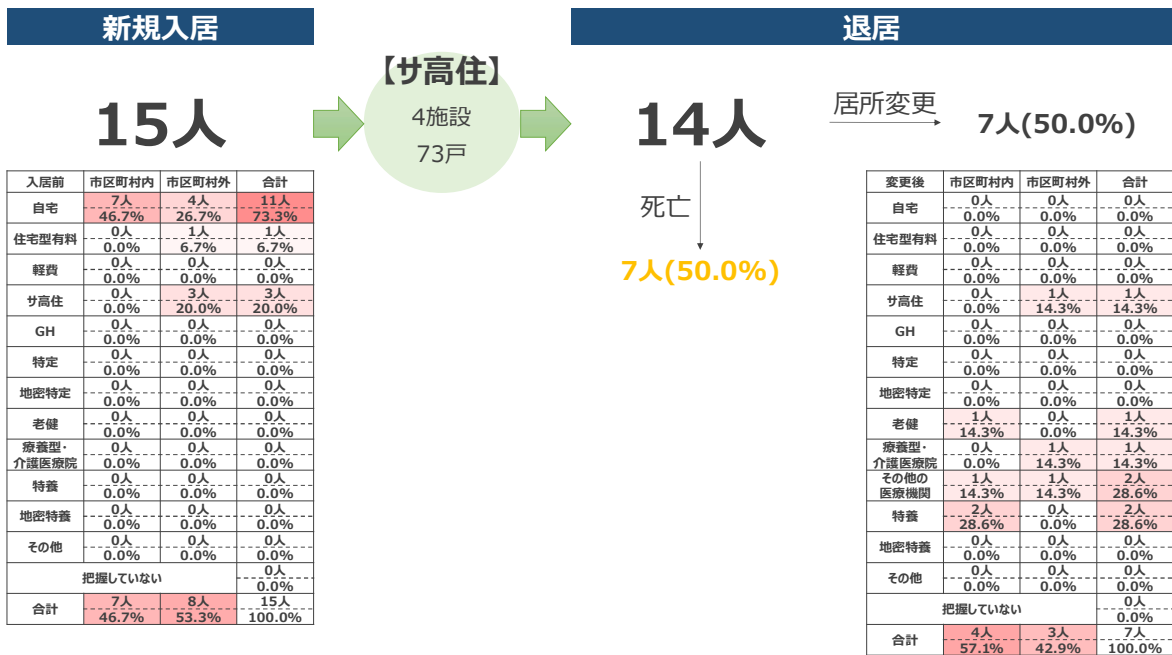
過去1年間の住宅型有料老人ホームの入居及び退居の流れ



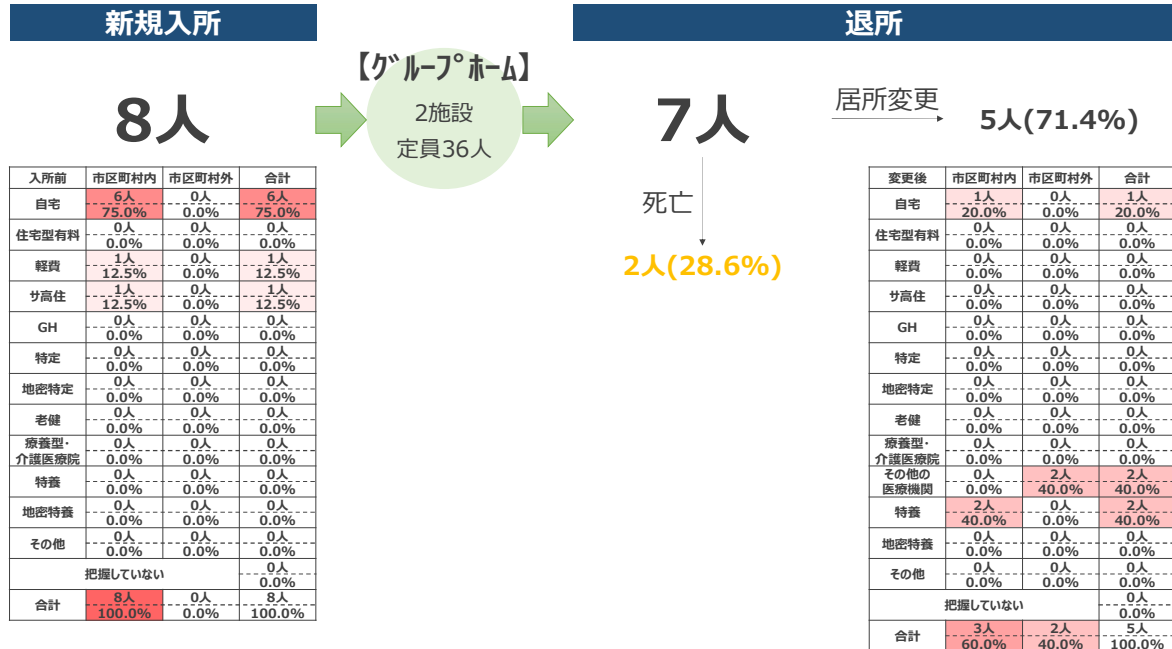
過去1年間の軽費老人ホームの入居及び退居の流れ



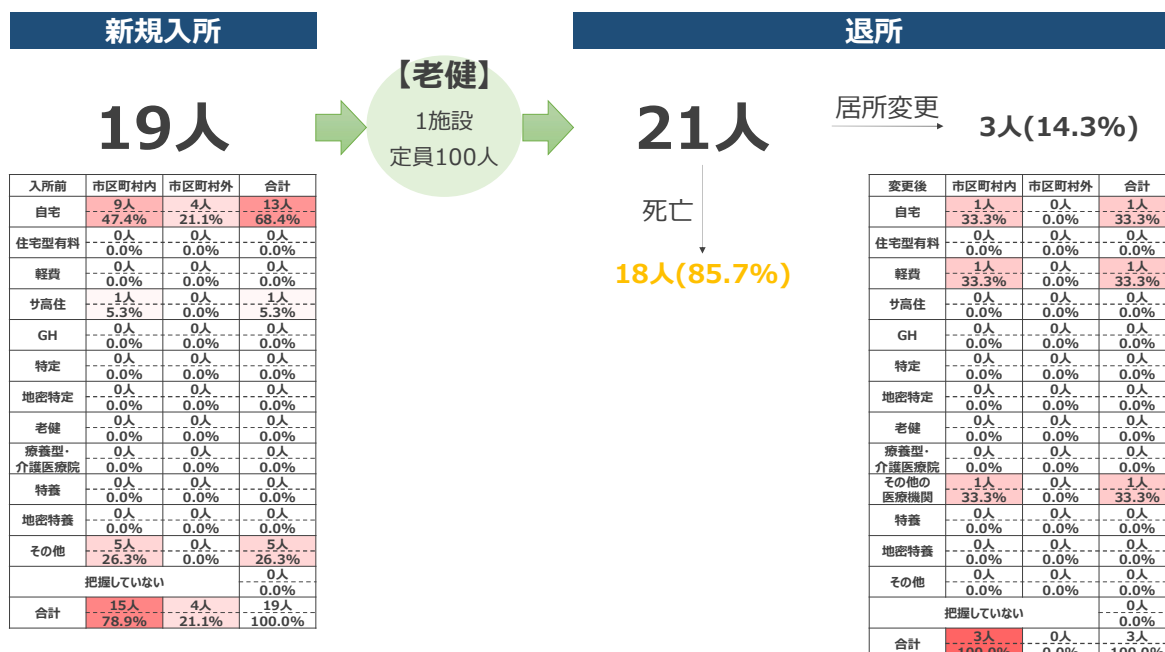
過去1年間のサービス付き高齢者向け住宅の入居及び退居の流れ



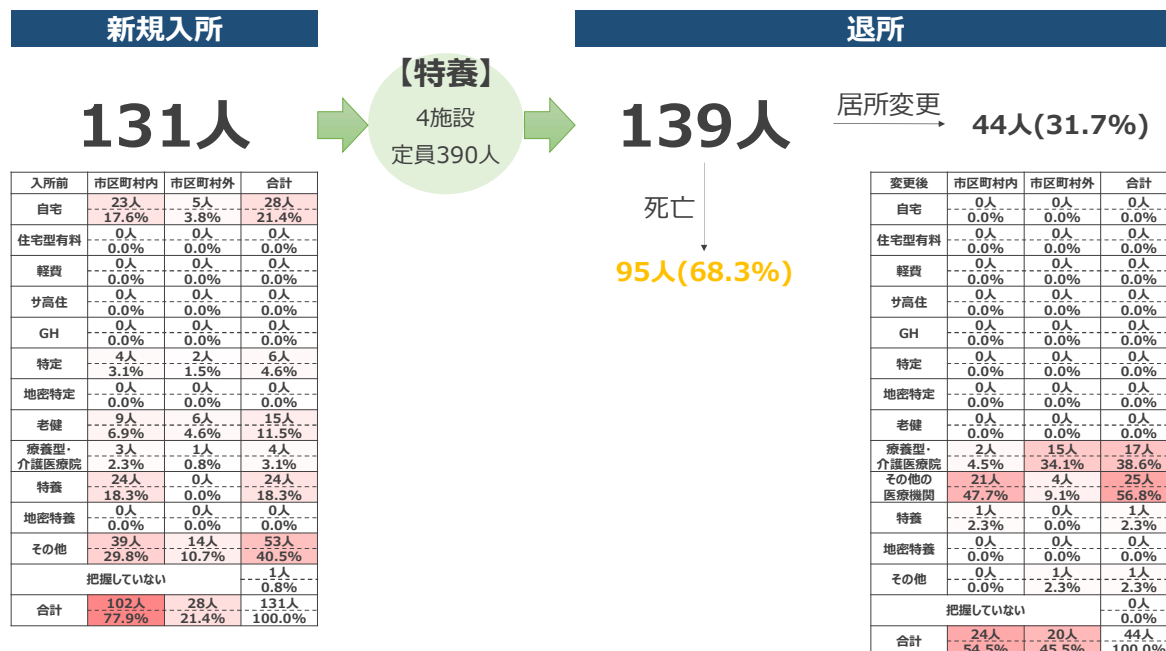
過去1年間のグループホームの入所及び退所の流れ



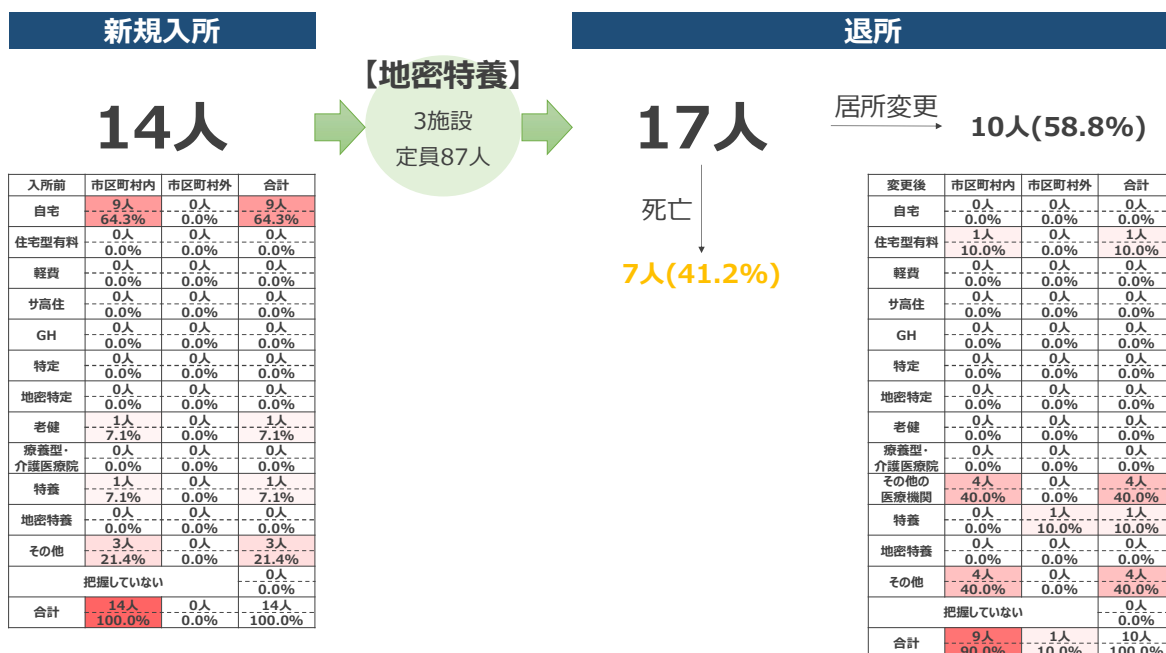
過去1年間の介護老人保健施設の入所及び退所の流れ



過去1年間の特別養護老人ホームの入所及び退所の流れ



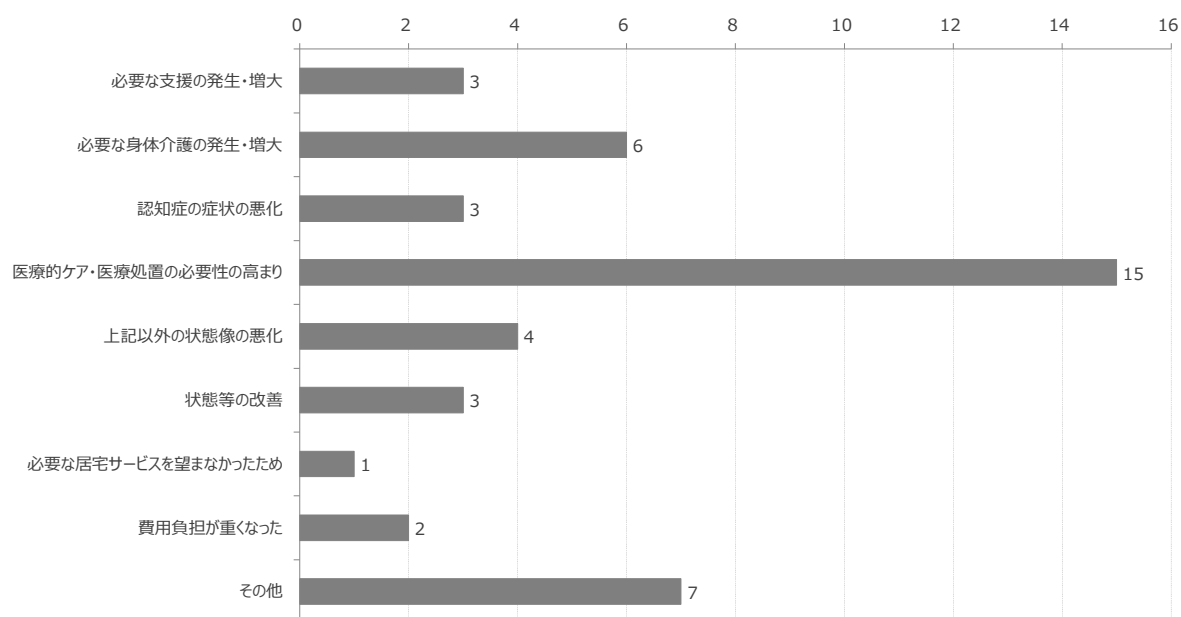
過去1年間の地域密着型特別養護老人ホームの入所及び退所の流れ



(2) 居所変更した理由

各施設等から居所変更した理由をみると、「医療的ケア・医療処置の必要性の高まり」、「必要な身体介護の発生・増大」、「上記以外の状態像の悪化」などとなっています。

居所変更した理由（n=16、順位不問、複数回答）

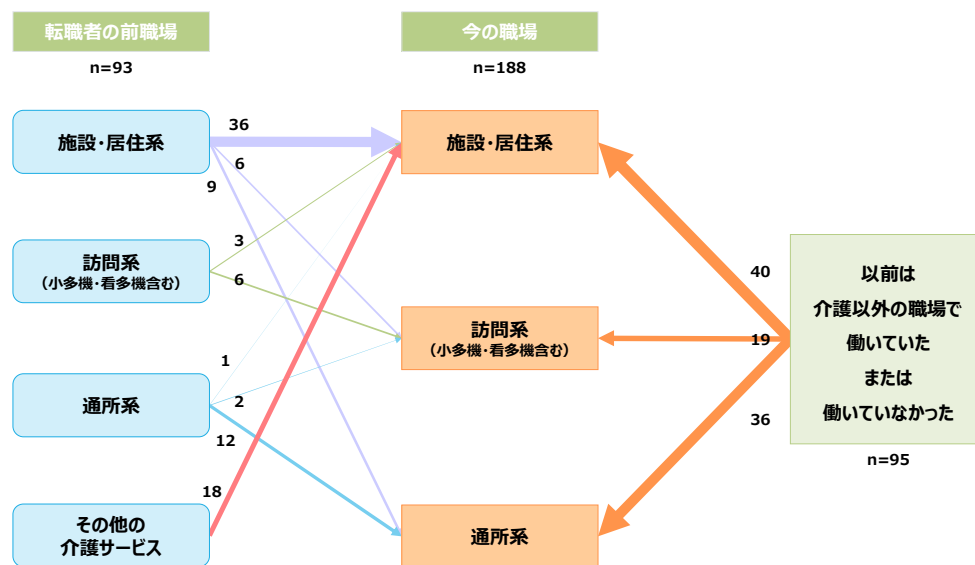


6 介護人材実態調査

(1) 過去1年間の介護職員の職場の変化

過去1年間の介護職員の職場の変化をみると、多いのは、「以前は介護以外の職場で働いていた、または働いていなかった」人が「施設・居住系」「通所系」の職場に採用される動線、「施設・居住系」の職場で働いていた人が「施設・居住系」の職場に採用される動線などです。

過去1年間の介護職員の職場の変化
(同一法人・グループ内での異動は除く)

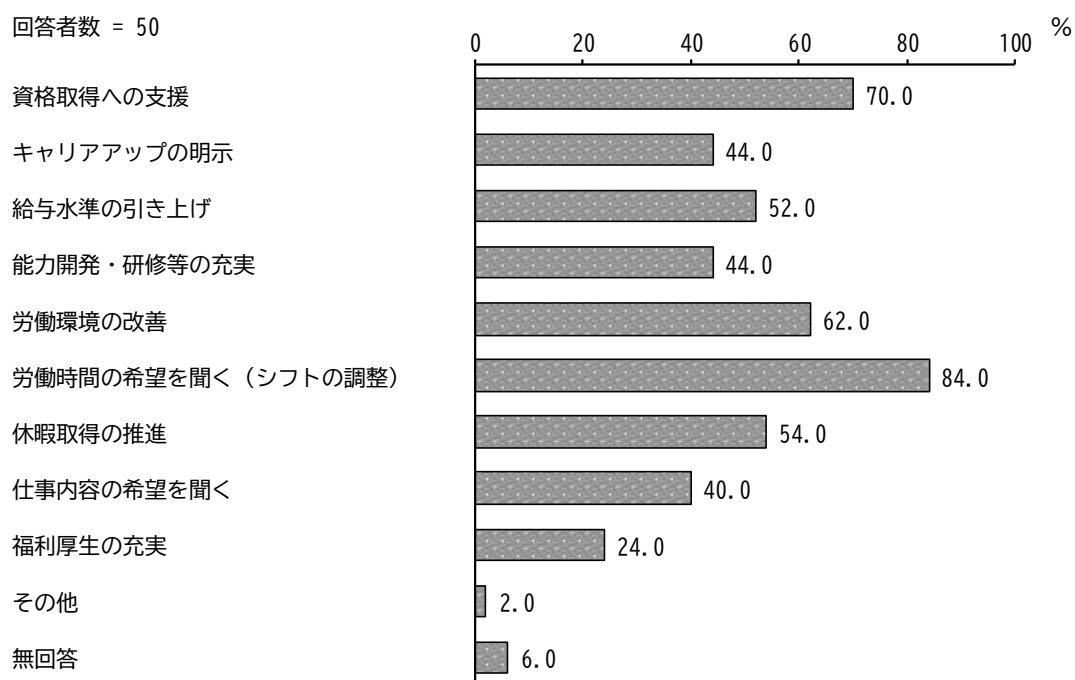


(注) 上記の分類が可能となる全ての設問に回答のあった方のみを集計対象としています。

（２）人材確保や職員定着のための取り組み

問２－５ 貴事業所では、人材確保や職員定着のためにどんなことに取り組んでいますか。
（該当項目に○）

「労働時間の希望を聞く（シフトの調整）」の割合が 84.0%と最も高く、次いで「資格取得への支援」の割合が 70.0%、「労働環境の改善」の割合が 62.0%となっています。



君津市高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計
画実態調査（アンケート）に係る分析結果報告書
令和5年3月

発行：君津市 福祉部介護保険課 介護推進係
〒299-1192 君津市久保2丁目13番1号
TEL 0439-56-1736